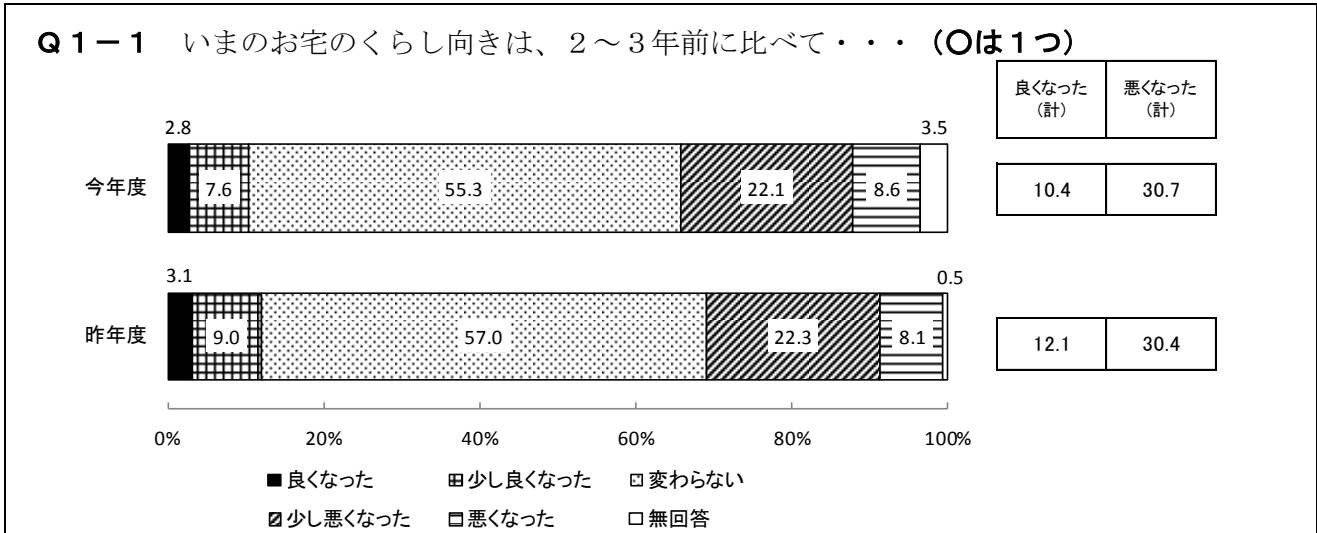


Ⅱ. 調査結果

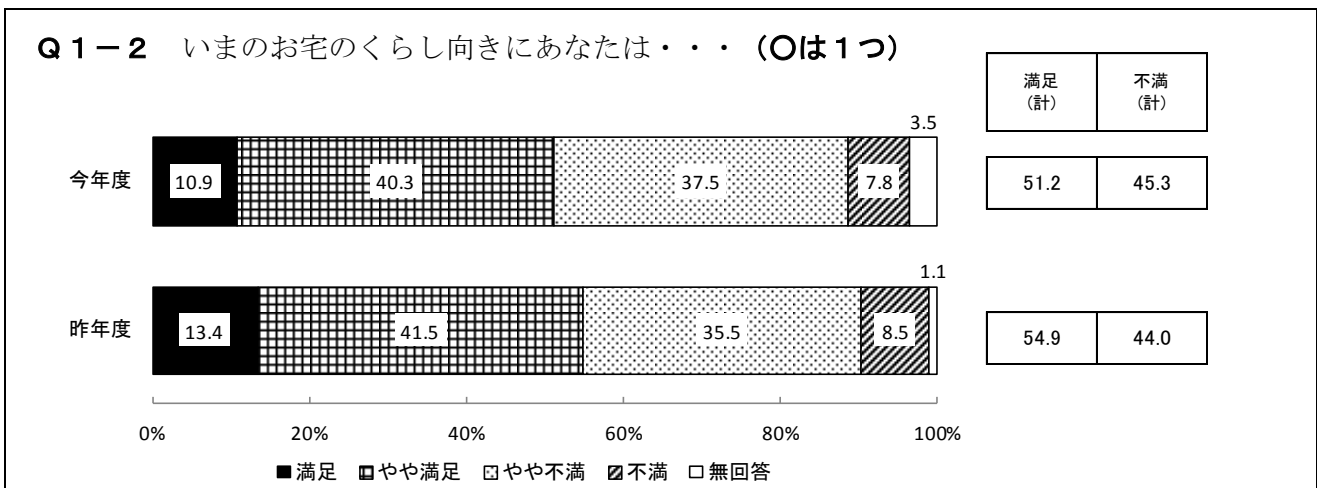
1. 県民の生活実感

1-1. 暮らし向きの変化



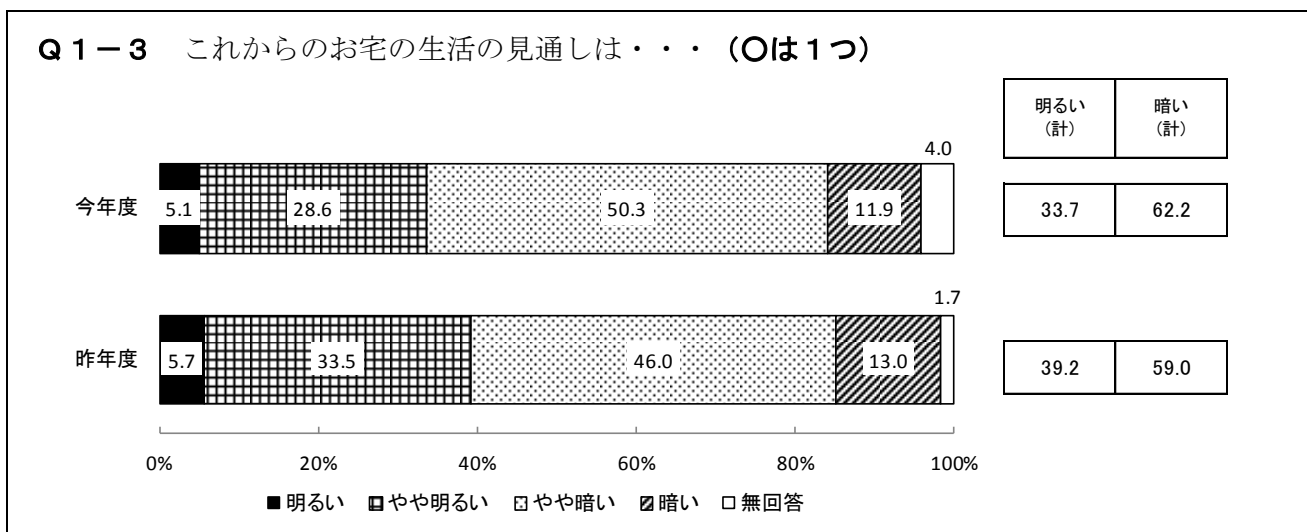
2～3年前に比べて暮らし向きは、「良くなった」と「少し良くなった」を合わせた『良くなった(計)』が10.4%、「悪くなった」と「少し悪くなった」を合わせた『悪くなった(計)』が30.7%となっている。昨年度と比較すると、『良くなった(計)』は1.7ポイント低下している。

1-2. 暮らしの満足度



現在の暮らし向きに関する満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足(計)』が51.2%、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満(計)』が45.3%となっている。昨年度と比較すると、『満足(計)』が3.7ポイント低下している。

1-3. 今後の生活の見通し



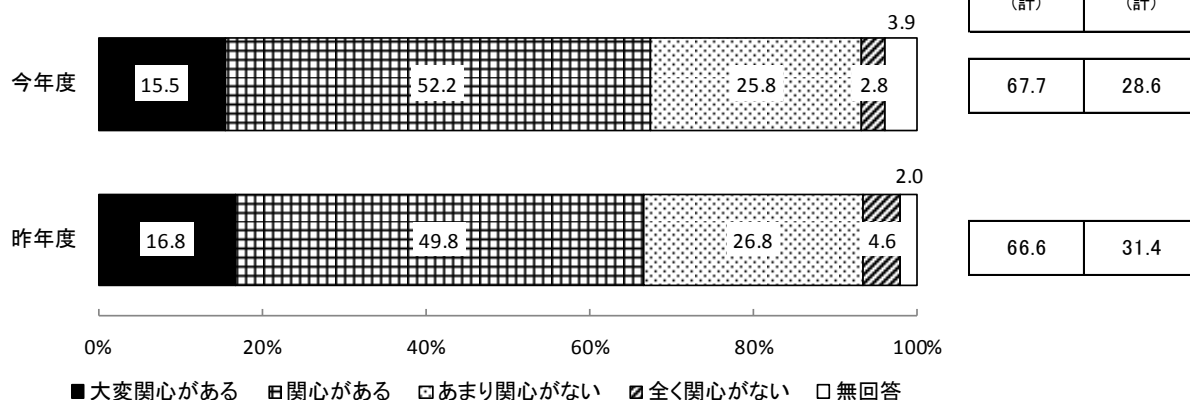
今後の生活の見通しについて、「明るい」と「やや明るい」を合わせた『明るい (計)』が33.7%、「暗い」と「やや暗い」を合わせた『暗い (計)』が62.2%となっている。昨年度と比較すると、『明るい (計)』が5.5ポイント低下している。

2. 政治や経済への関心

2-1. 国の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(〇はそれぞれ1つずつ)

(1) 国の政治・経済

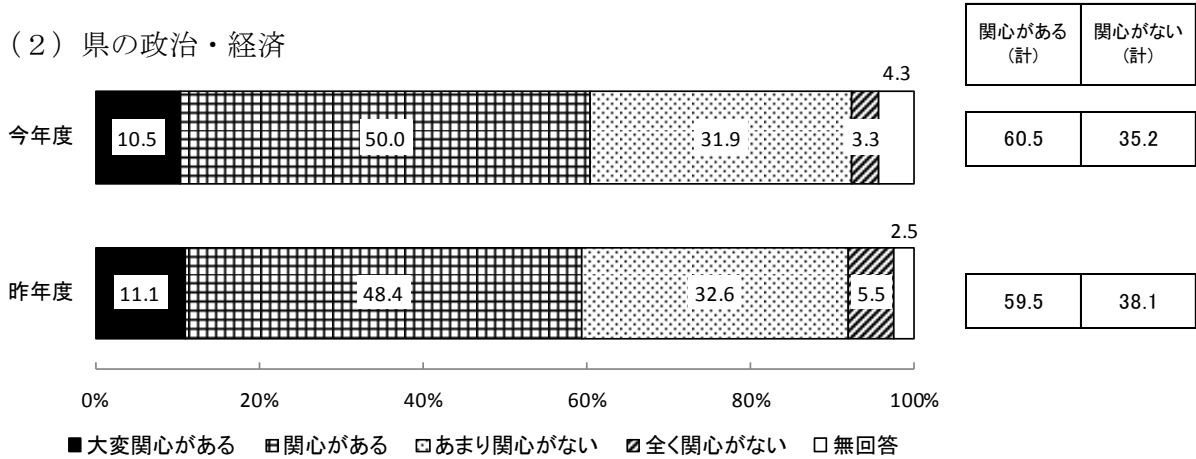


国の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 67.7%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 28.6%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 1.1 ポイント上昇し、『関心がない (計)』は 2.8 ポイント低下している。

2-2. 県の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(〇はそれぞれ1つずつ)

(2) 県の政治・経済

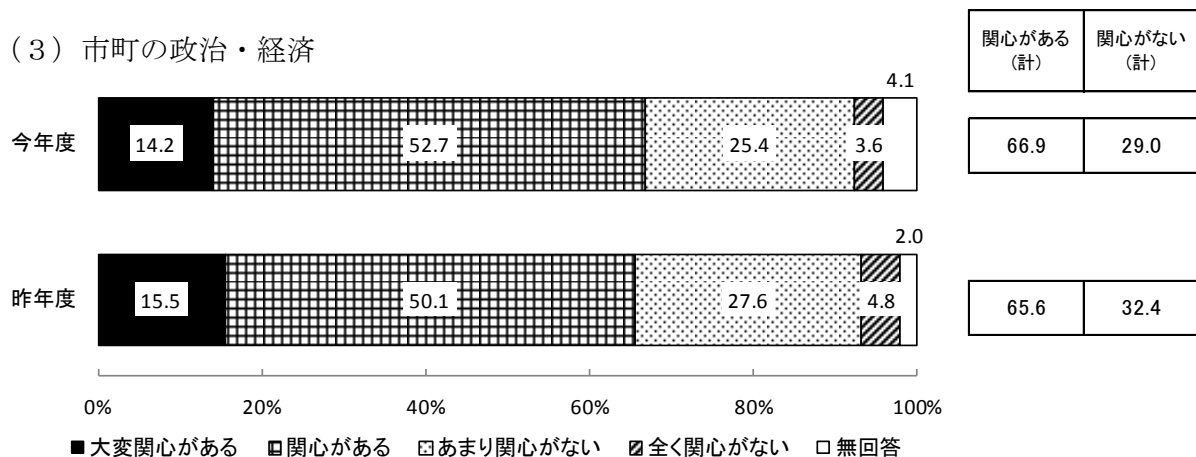


県の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 60.5%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 35.2%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 1.0 ポイント上昇、『関心がない (計)』は 2.9 ポイント低下している。

2-3. 市町の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(〇はそれぞれ1つずつ)

(3) 市町の政治・経済

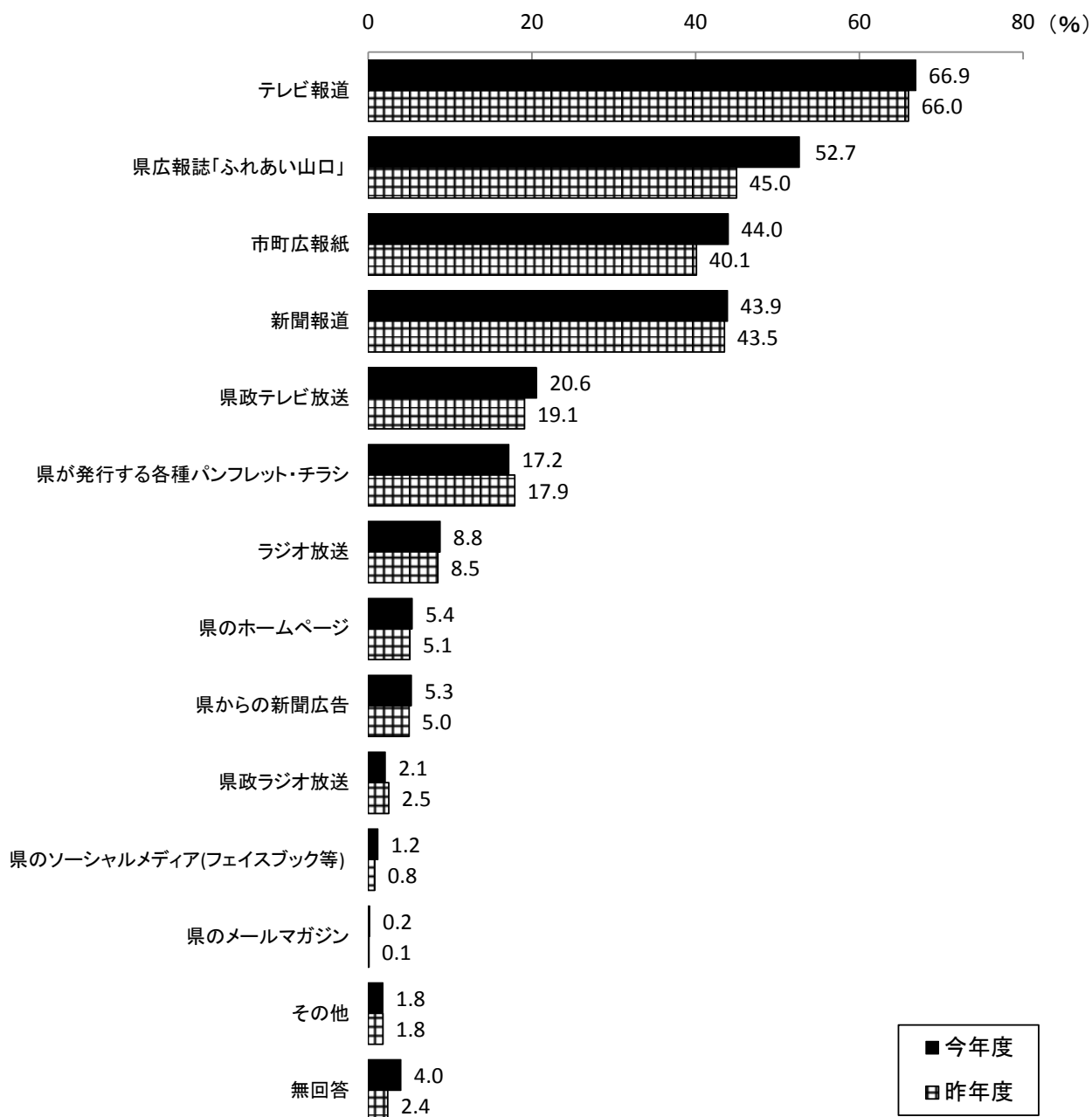


市町の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 66.9%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 29.0%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 1.3 ポイント上昇、『関心がない (計)』は 3.4 ポイント低下している。

3. 県の行っている広報

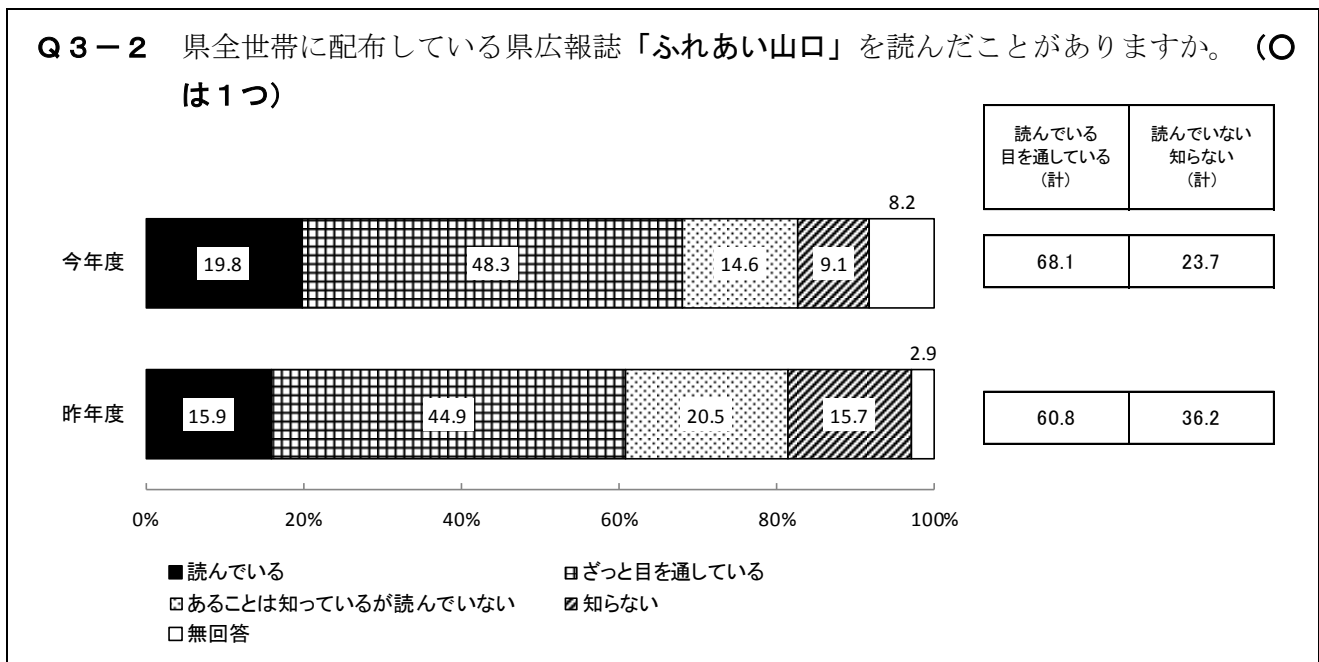
3-1. 県の仕事の認知媒体

Q3-1 あなたは日頃、県が行っている仕事などの県政情報を何によって知ることが多いですか。(〇はいくつでも)



県の仕事の認知媒体について、「テレビ報道」が 66.9%と最も多く、次いで「県広報誌『ふれあい山口』」が 52.7%、「市町広報紙」が 44.0%、「新聞報道」が 43.9%、「県政テレビ放送」が 20.6%、「県が発行する各種パンフレット・チラシ」が 17.2%などの順となっている。昨年度と比較すると、「県広報誌『ふれあい山口』」は 7.7 ポイント上昇している。

3-2. 「ふれあい山口」の閲読状況



県広報誌「ふれあい山口」の閲読状況について、「読んでいる」と「ざっと目を通している」を合わせた『読んでいる・目を通している (計)』は 68.1%、「あることは知っているが読んでいない」と「知らない」を合わせた『読んでいない・知らない (計)』は 23.7%となっている。昨年度と比較すると、『読んでいる・目を通している (計)』は 7.3 ポイント上昇、『読んでいない・知らない (計)』は 12.5 ポイント低下している。

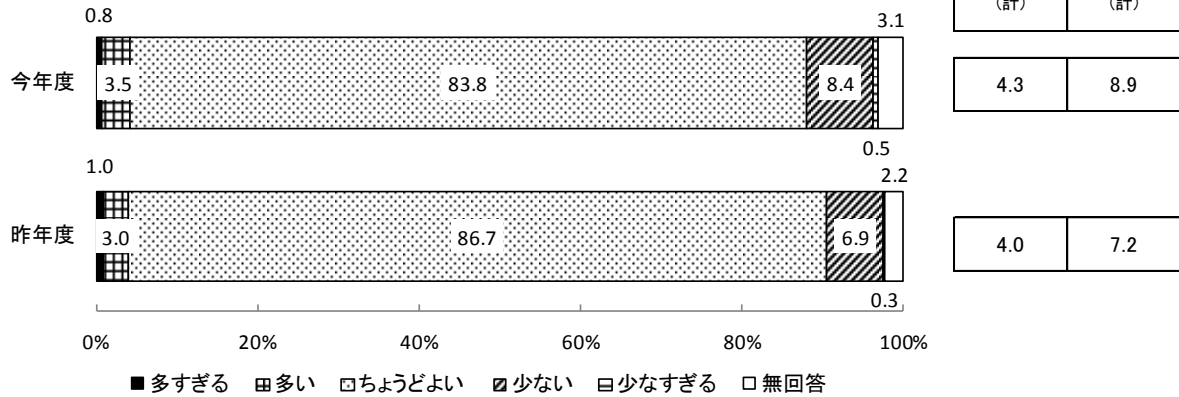
3-3. 「ふれあい山口」の内容に対する評価

【Q3-2で「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答した方に】 (n=1,061)

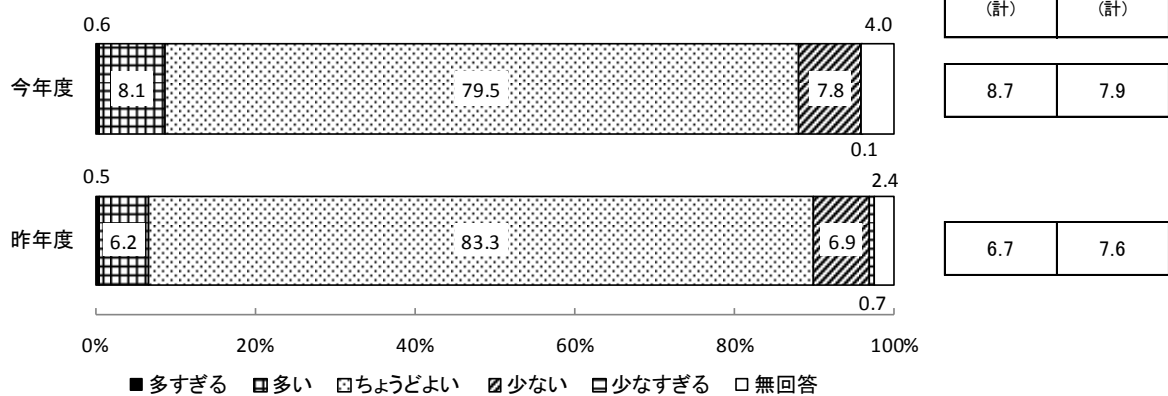
Q3-3 「ふれあい山口」の情報量及び読みやすさについておたずねします。

(○はそれぞれ1つ)

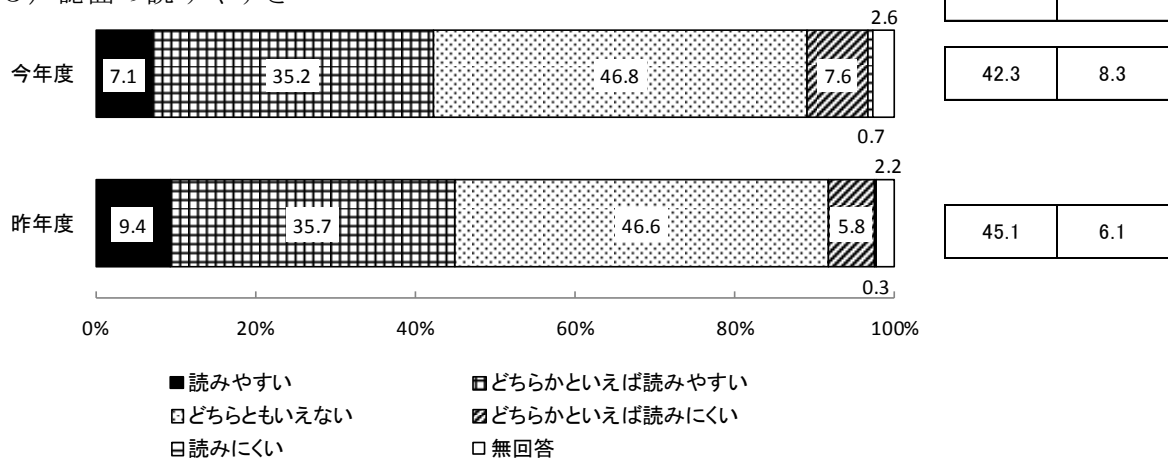
(1) 発行回数 (年4回)



(2) 各号の情報量 (年2回：12ページ 年2回：8ページ)



(3) 誌面の読みやすさ



Q3-2で「ふれあい山口」を「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答された方に、「ふれあい山口」の内容に対する評価について質問すると、発行回数は「ちょうどよい」が83.8%と最も多

く、情報量については「ちょうどよい」が79.5%と最も多くなっている。昨年度と比較すると、発行回数が「少ない」と「少なすぎる」合わせた『少ない(計)』は1.7ポイント上昇、情報量が「多い」と「多すぎる」を合わせた『多い(計)』は2.0ポイント上昇となっている。また読みやすさについては、「読みやすい」と「どちらかといえば読みやすい」を合わせた『読みやすい(計)』が42.3%となっている。

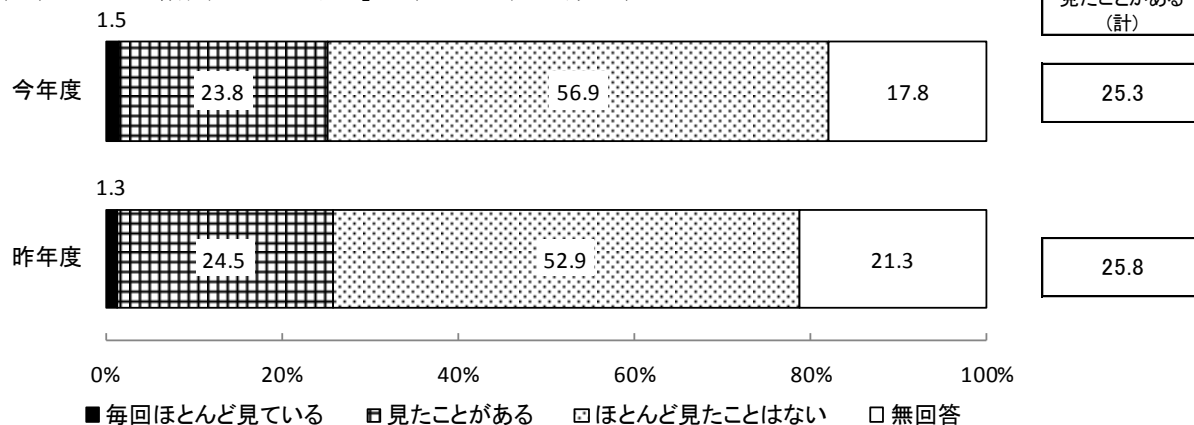
3-4. 各テレビ番組・各ラジオ番組の視聴（聴取）状況及び印象

Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

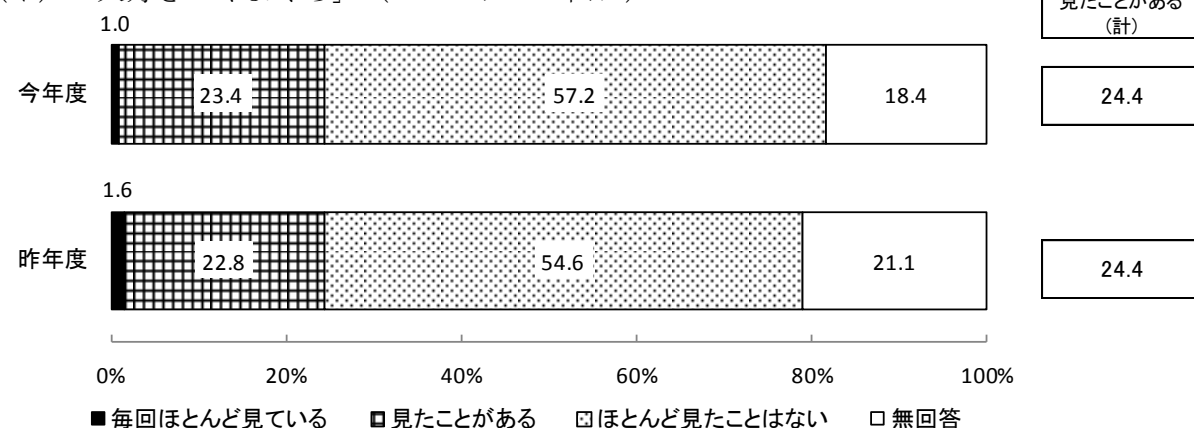
(1) 次の番組を視聴（または聴取）されたことがありますか。1、2、3から選んでください。

(○はそれぞれ1つ)

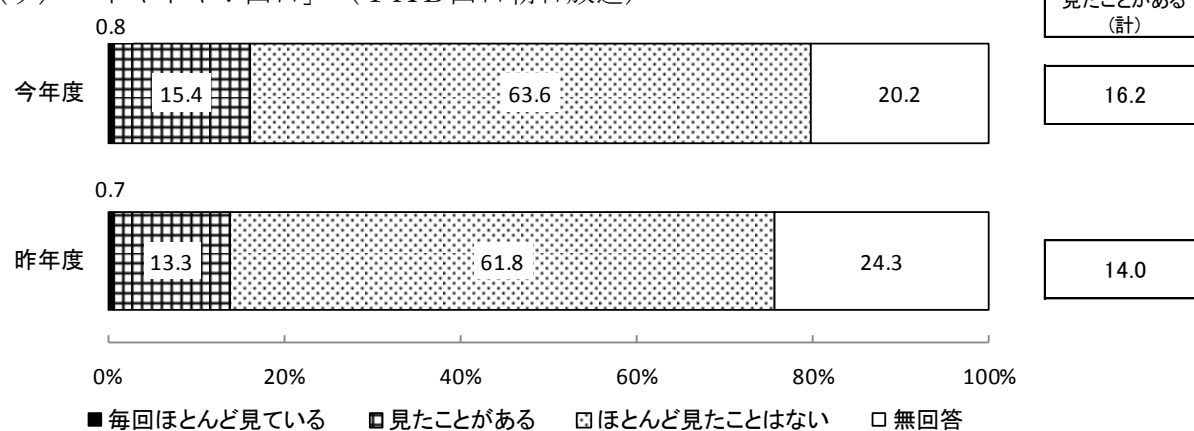
(ア) 「元気創出！やまぐち」(KRY山口放送)



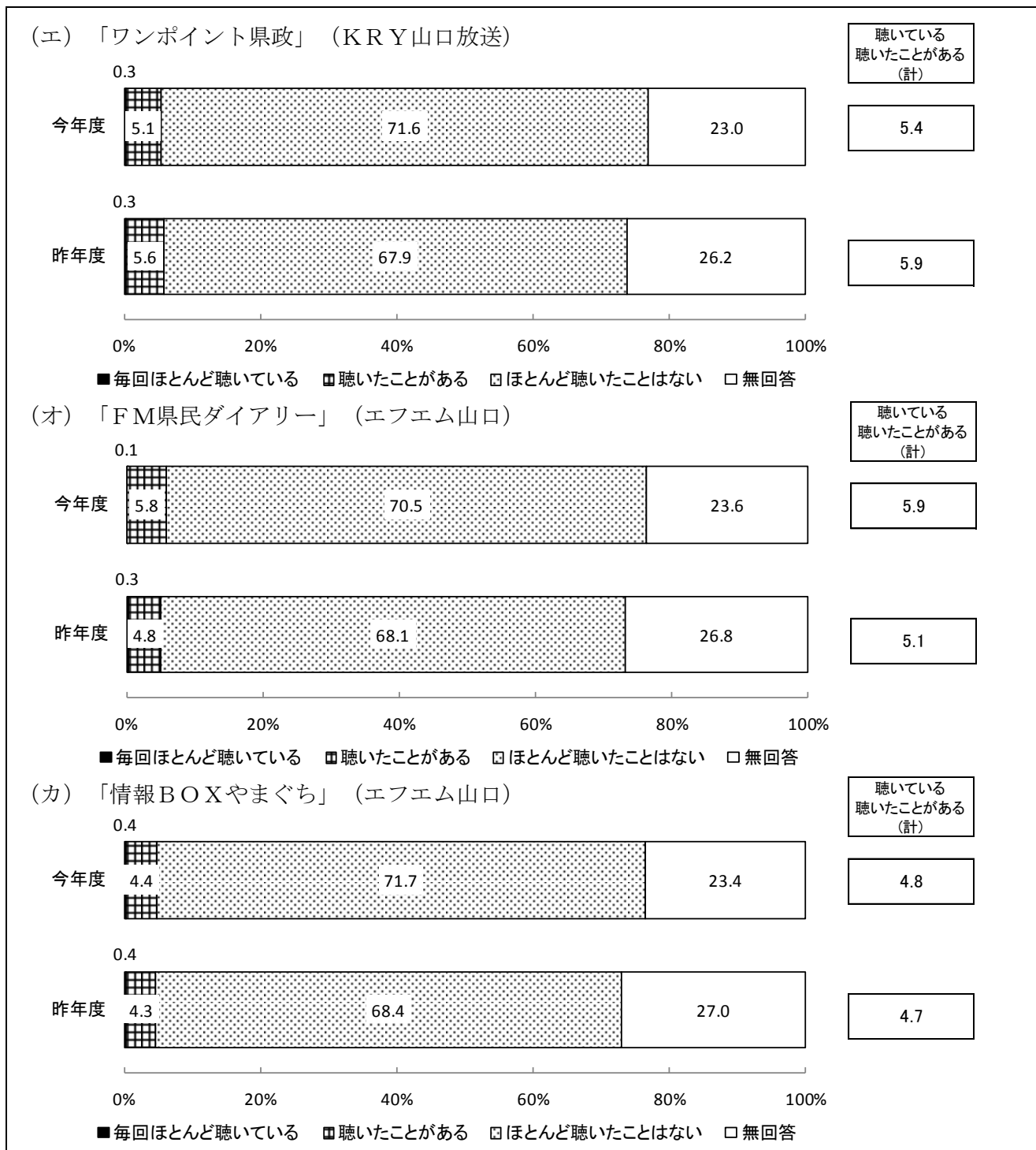
(イ) 「大好き！やまぐち」(TYSテレビ山口)



(ウ) 「イキイキ！山口」(YAB山口朝日放送)



県が提供している県政テレビ番組の視聴状況について、「毎回ほとんど見ている」と「見たことがある」を合わせた『見ている・見たことがある (計)』が、「元気創出！やまぐち」は25.3%、「大好き！やまぐち」は24.4%、「イキイキ！山口」は16.2%となっている。

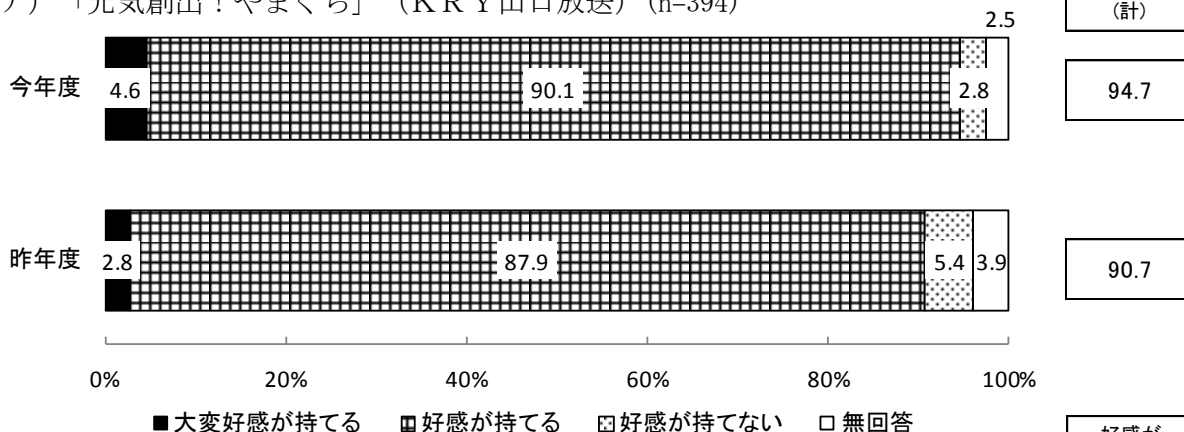


県が提供している県政ラジオ番組の聴取状況について、「毎回ほとんど聴いている」と「聴いたことがある」を合わせた『聴いている・聴いたことがある (計)』が、「ワンポイント県政」は5.4%、「FM県民ダイアリー」は5.9%、「情報BOXやまぐち」は4.8%と、昨年度に比べ、「FM県民ダイアリー」と「情報BOXやまぐち」はそれぞれ0.8ポイント、0.1ポイント上昇している。

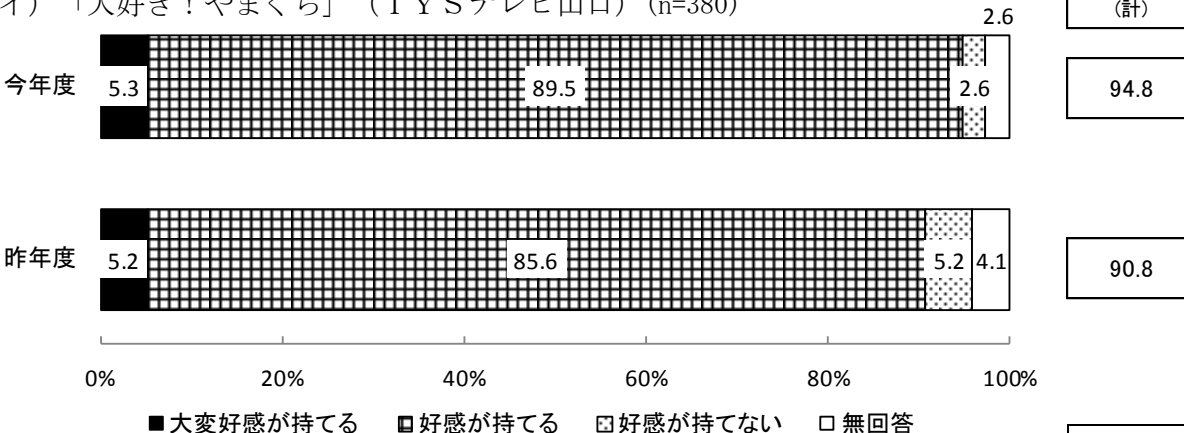
Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

(2) 視聴（または聴取）されたことがある場合は、その番組の印象をア、イ、ウから選んでください。（○はそれぞれ1つ）

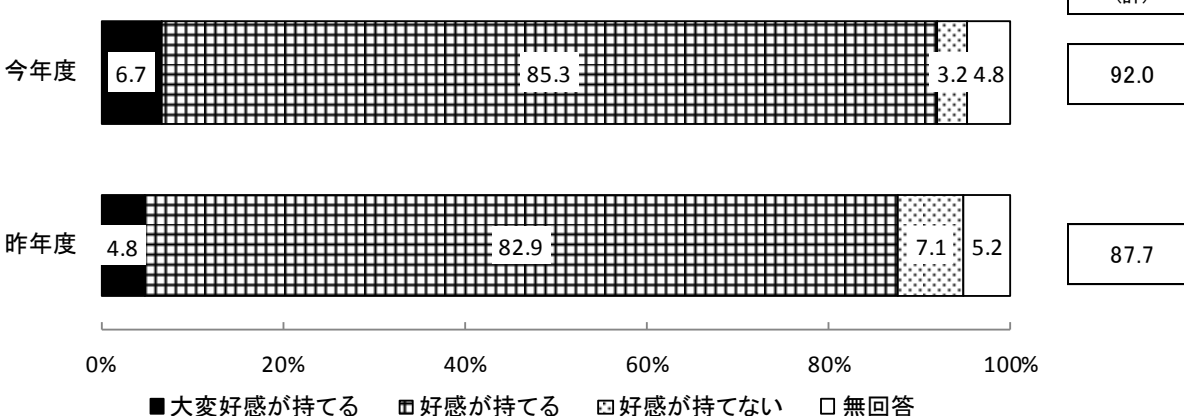
(ア) 「元気創出！やまぐち」（K R Y山口放送）(n=394)



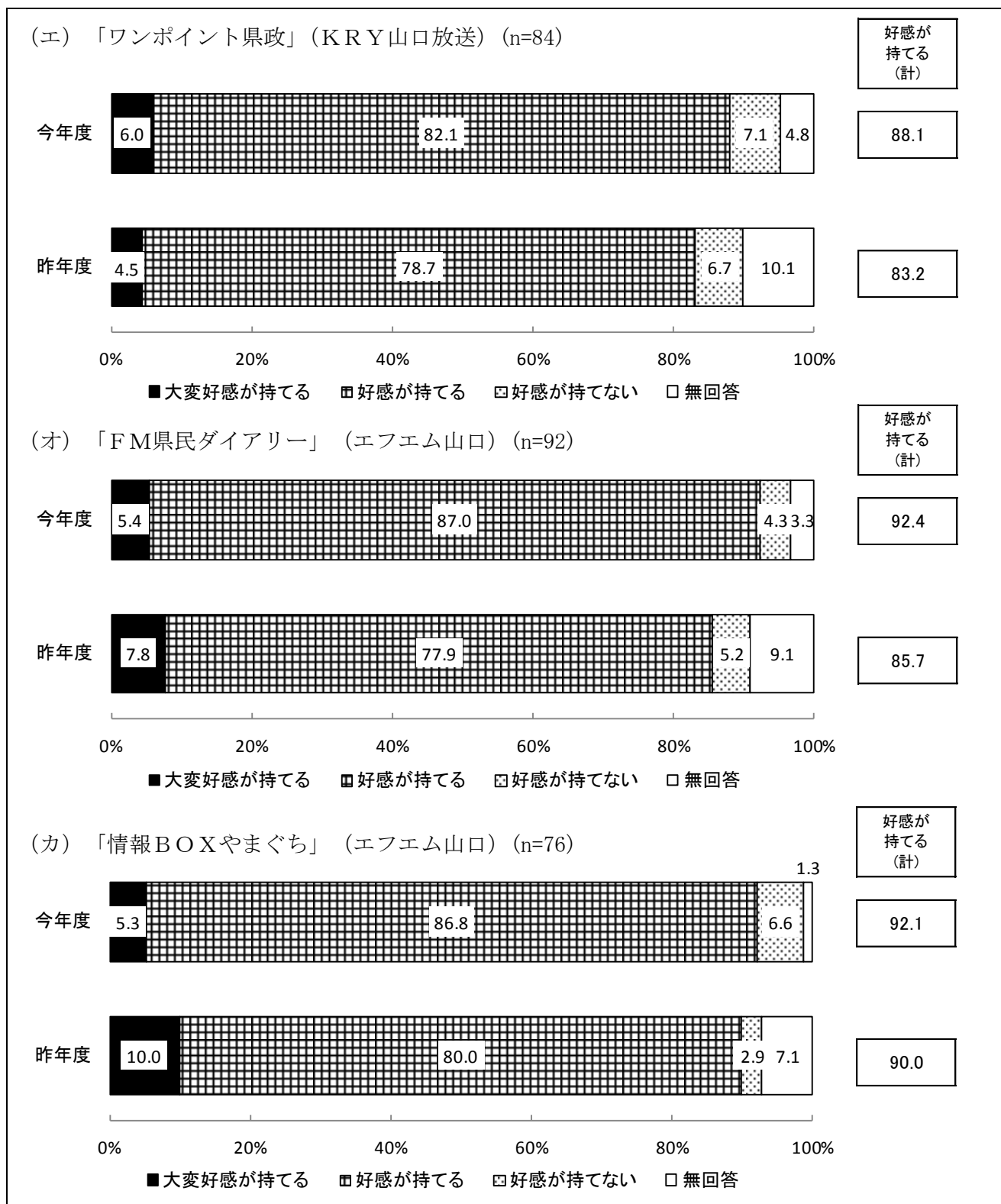
(イ) 「大好き！やまぐち」（T Y Sテレビ山口）(n=380)



(ウ) 「イキイキ！山口」（Y A B山口朝日放送）(n=252)



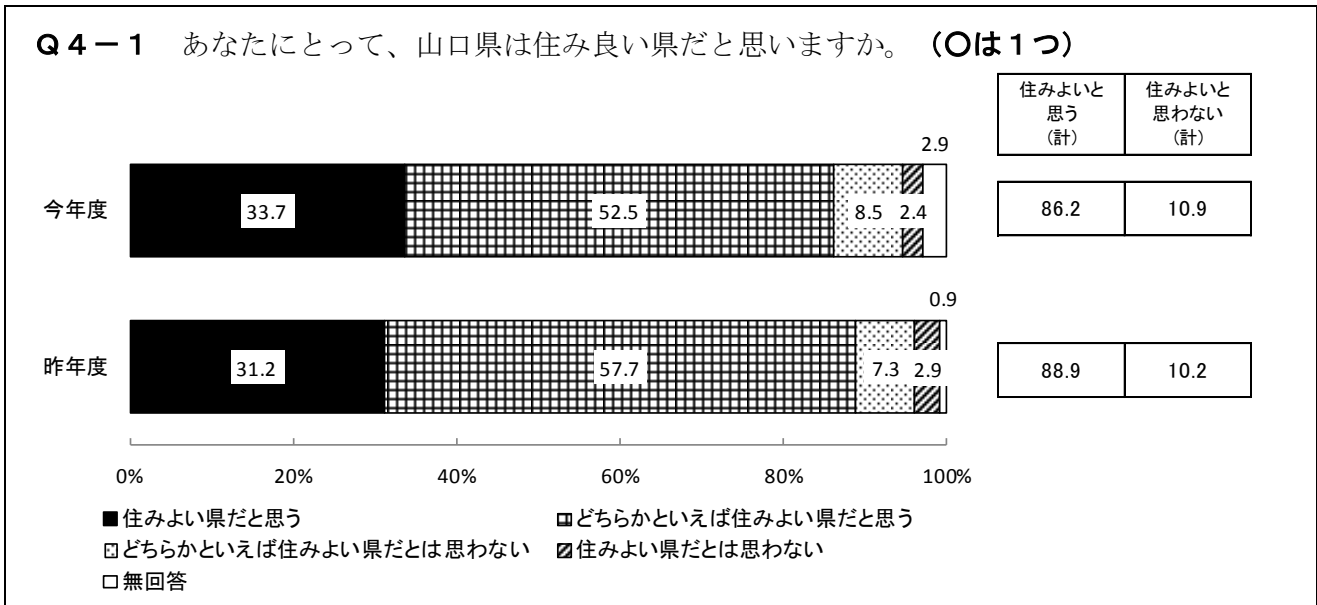
県が提供している県政テレビ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』が9割超となっており、すべての番組で上昇している。



県が提供している県政ラジオ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』が9割前後となっており、すべての番組で上昇している。

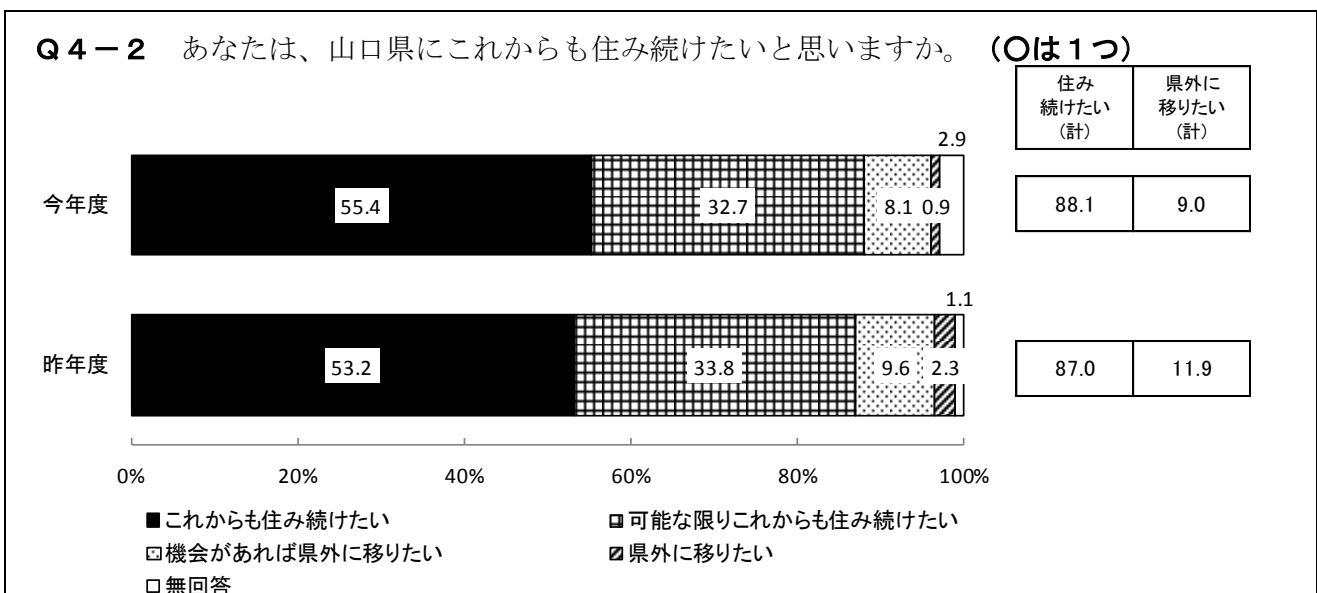
4. 県の取組に対する実感

4-1. 山口県の住み良さ



山口県の住み良さについて、「住み良い県だと思う」と「どちらかといえば住み良い県だと思う」を合わせた『住み良いと思う (計)』が 86.2%となっており、昨年度と比較すると、2.7 ポイント低下している。

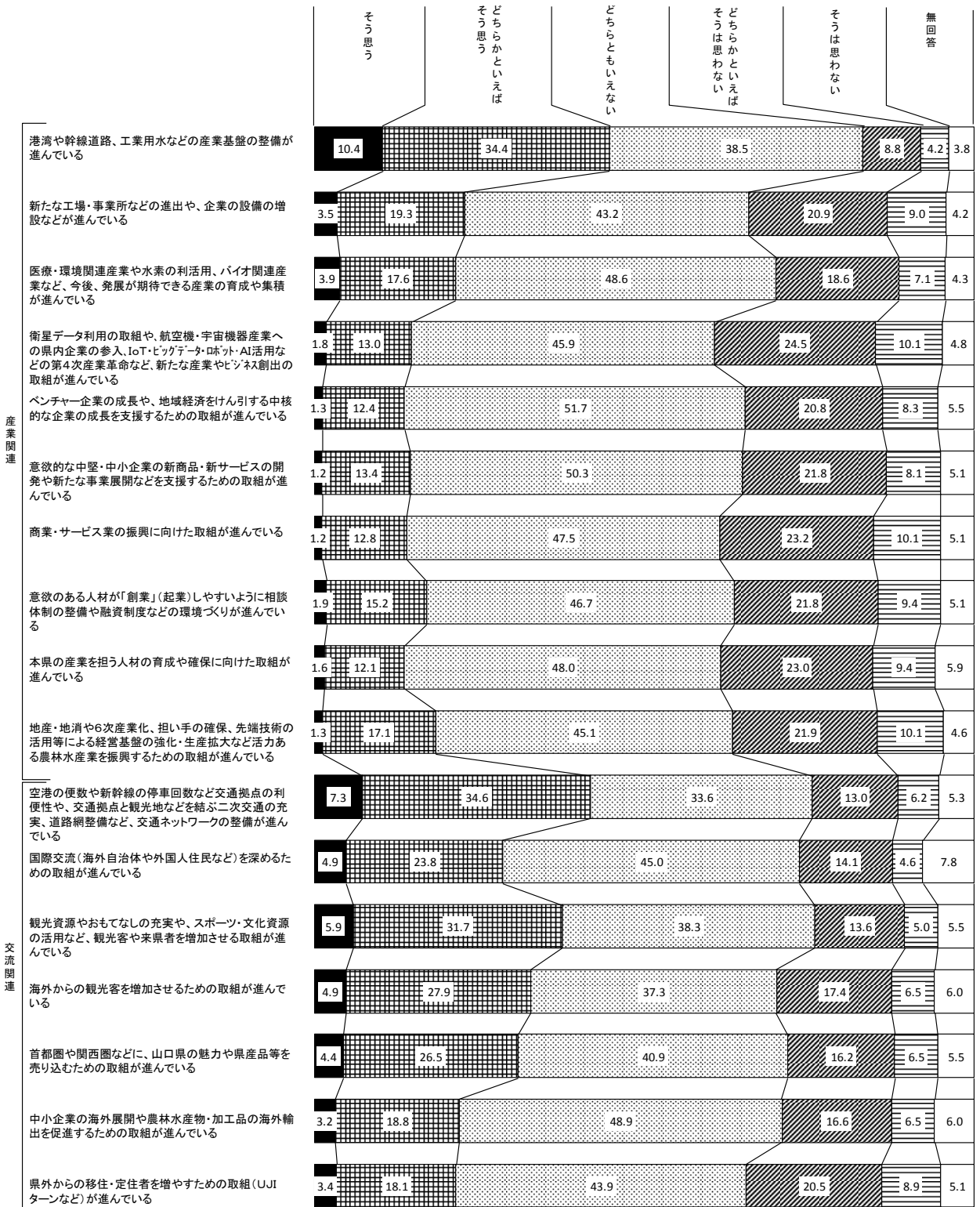
4-2. 今後の山口県への居住意向

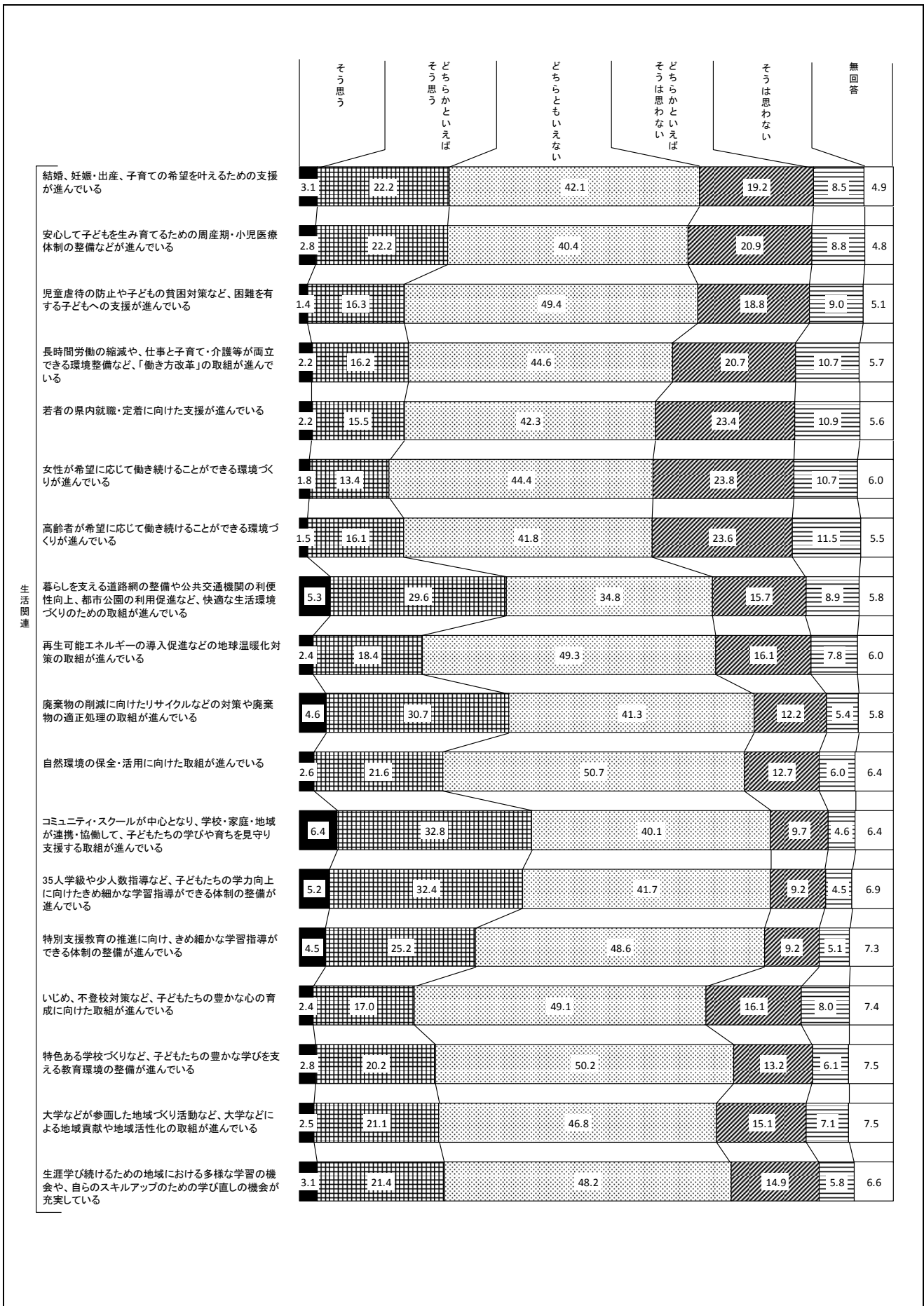


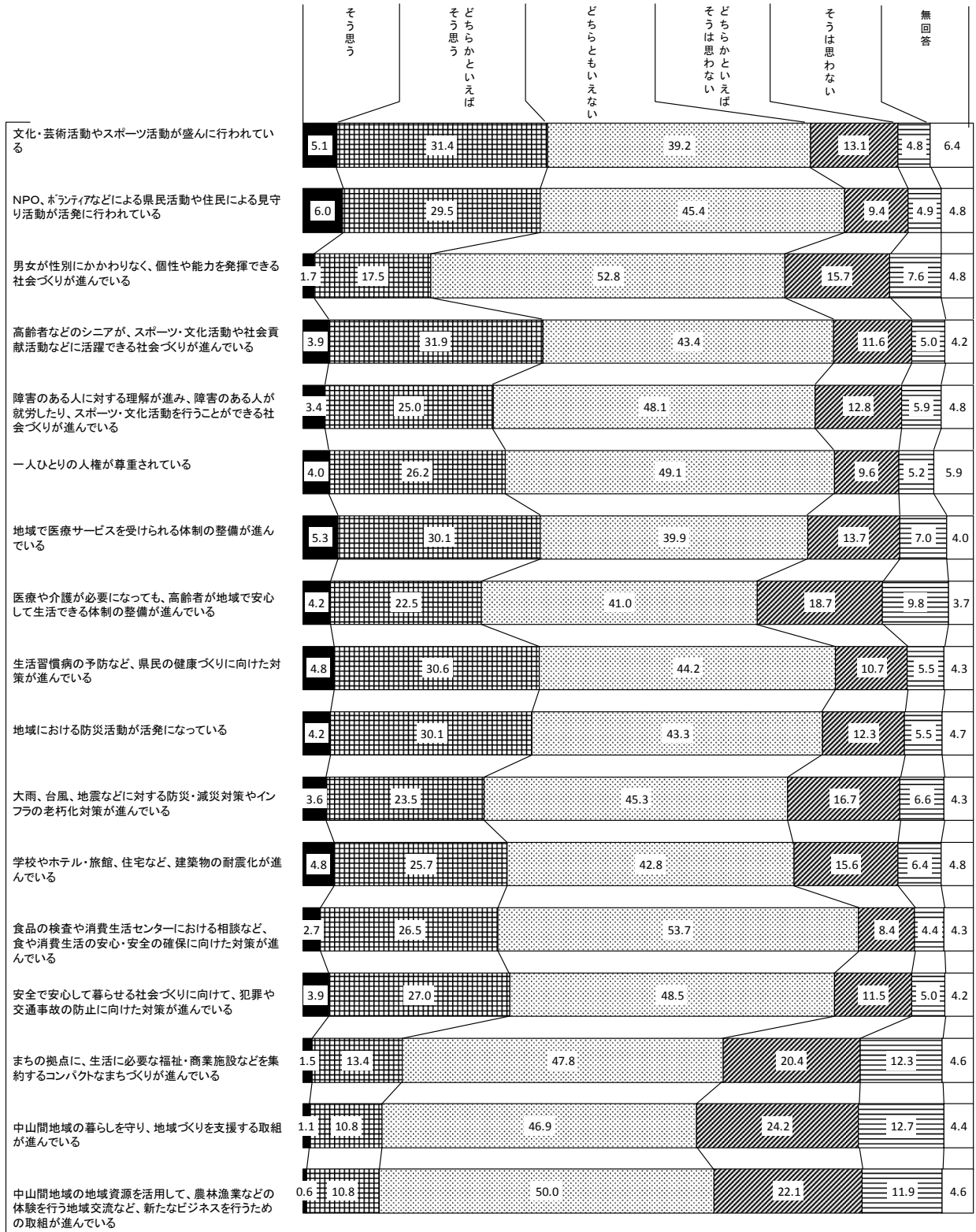
今後の山口県への居住意向について、「これからも住み続けたい」と「可能な限りこれからも住み続けたい」を合わせた『住み続けたい (計)』が 88.1%となっており、昨年度と比較すると、1.1 ポイント上昇している。

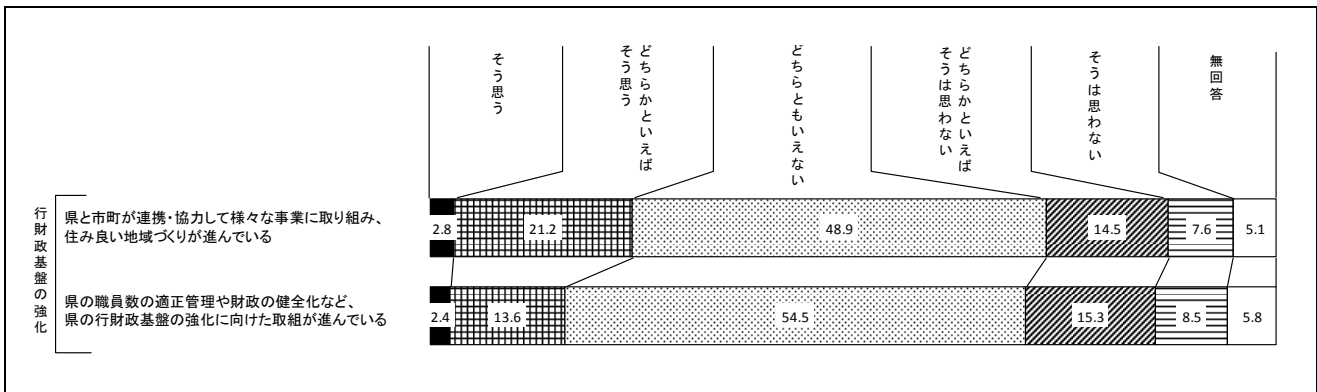
4-3. 県の取組に対する実感

Q4-3 「やまぐち維新プラン」では19のプロジェクトを掲げ重点的に施策を推進しています。これに関する県の施策について、あなたの実感についておたずねします。
右ページも参考に、いずれか1つを○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)









県の取組に対する実感について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う(計)』の割合は、【産業関連】分野の「港湾や幹線道路、工業用水などの産業基盤の整備が進んでいる」が44.8%、【交通関連】分野の「空港の便数や新幹線の停車回数など交通拠点の利便性や、交通拠点と観光地などを結ぶ二次交通の充実、道路網整備など、交通ネットワークの整備が進んでいる」が41.9%、【生活関連】分野の「コミュニティ・スクールが中心となり、学校・家庭・地域が連携・協働して、子どもたちの学びや育ちを見守り支援する取組が進んでいる」が39.2%などで高くなっている。

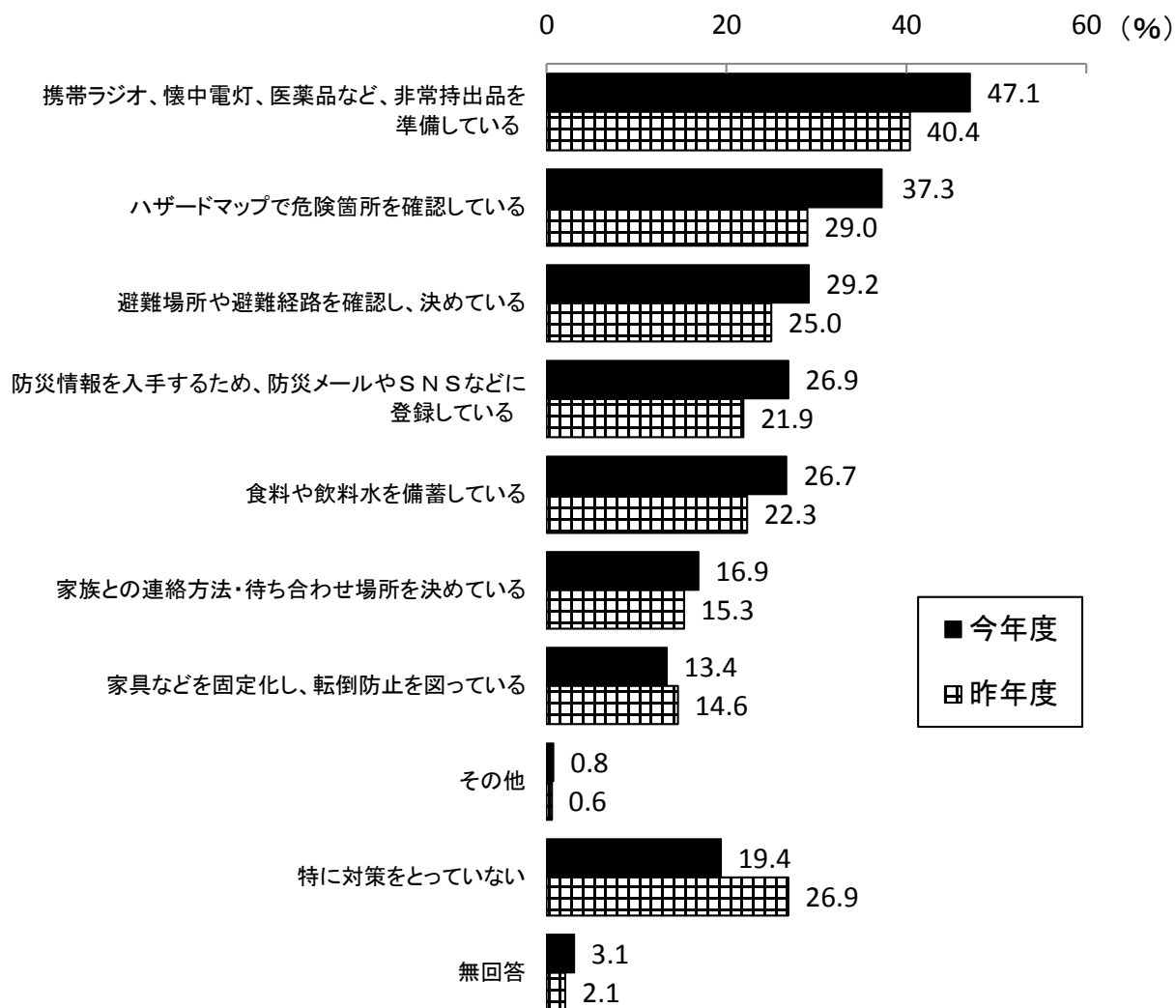
一方、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『思わない(計)』の割合は、【生活関連】分野の「中山間地域の暮らしを守り、地域づくりを支援する取組が進んでいる」が36.9%、「高齢者が希望に応じて働き続けることができる環境づくりが進んでいる」が35.1%、【産業関連】分野の「衛星データ利用の取組や、航空機・宇宙機器産業への県内企業の参入、I o T・ビッグデータ・ロボット・A I活用などの第4次産業革命など、新たな産業やビジネス創出の取組が進んでいる」が34.6%などで高くなっている。

『その他、県が取組を進めている12項目』

5. 防災・減災対策について

5-1. 実行している防災対策

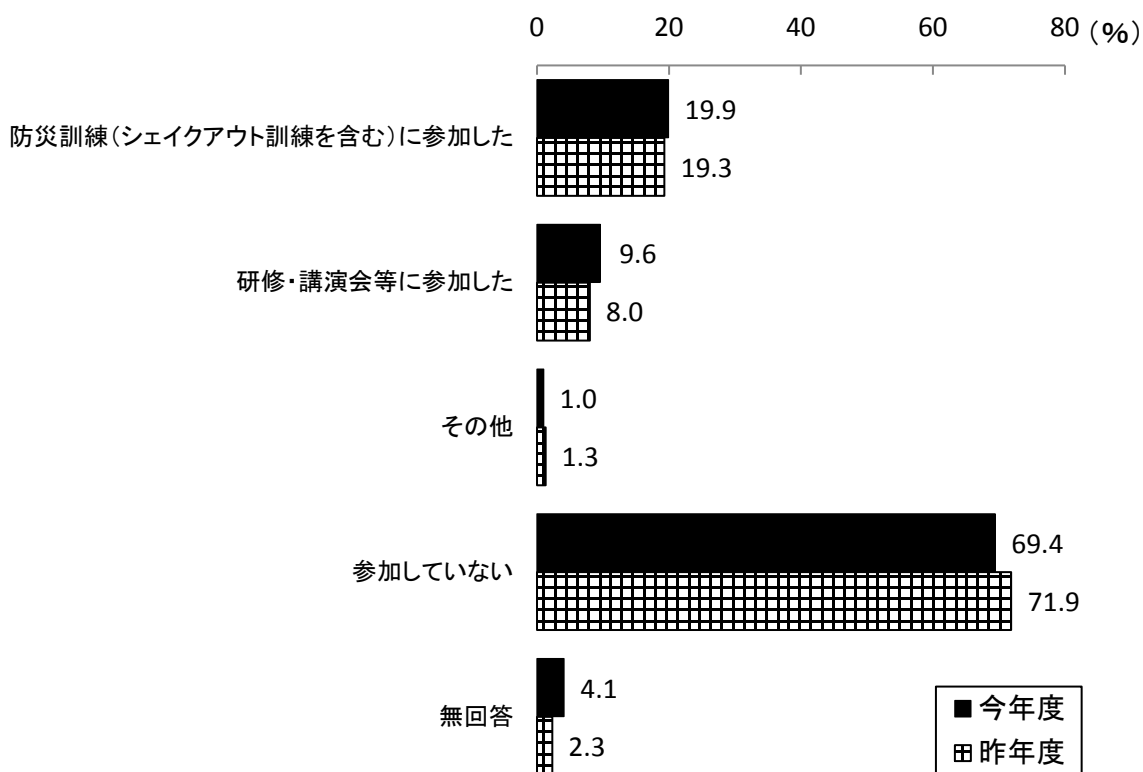
Q5-1 あなたの家庭では、台風や地震などの災害に備え、どのような防災対策を行っていますか。(〇はいくつでも)



行っている防災対策について、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など、非常持出品を準備している」が47.1%と最も高く、次いで「ハザードマップで危険箇所を確認している」が37.3%、「避難場所や避難経路を確認し、決めている」が29.2%の順となっている。また、「特に対策をとっていない」は19.4%となり、昨年度と比較すると7.5ポイント低下している。

5-2. 参加した防災活動

Q5-2 あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場などでの防災活動（シェイクアウト訓練※）、防災訓練、研修・講演などへの参加）に参加したことがありますか。
 (〇はいくつでも)



過去1年間に、防災活動に「参加していない」が69.4%と最も高い。参加した中では、「防災訓練（シェイクアウト訓練を含む）に参加した」が19.9%、「研修会・講演会等に参加した」が9.6%、その他が1.0%の順となっている。

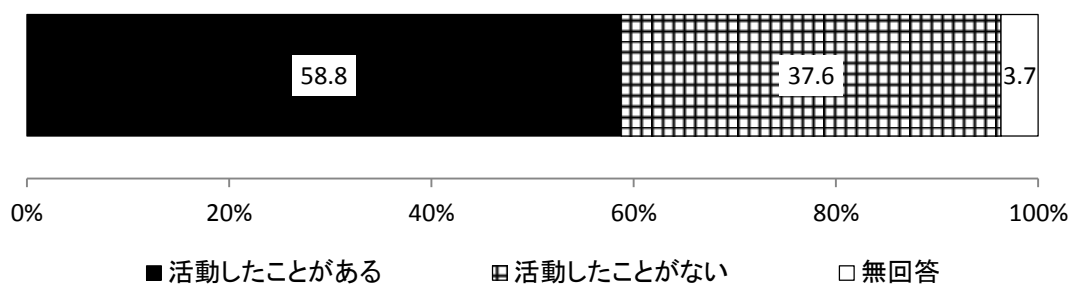
※「シェイクアウト訓練」：合図に併せ、「DROP!(まず低く!)」、「COVER!(頭を守り!)」、「HOLD ON!(動かない)」の三つの行動をとる訓練

6. 「県民活動」について

「**県民活動**」とは、営利を目的としない県民の自主的・主体的な社会参加活動で不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを目的とする活動であり、活動の形態としては、コミュニティ活動（地域住民活動）、ボランティア活動（個人の自発的な意思に基づく活動）、NPO活動（一定の規模を備えた組織的な活動）をいいます。

6-1. 「県民活動」の参加状況

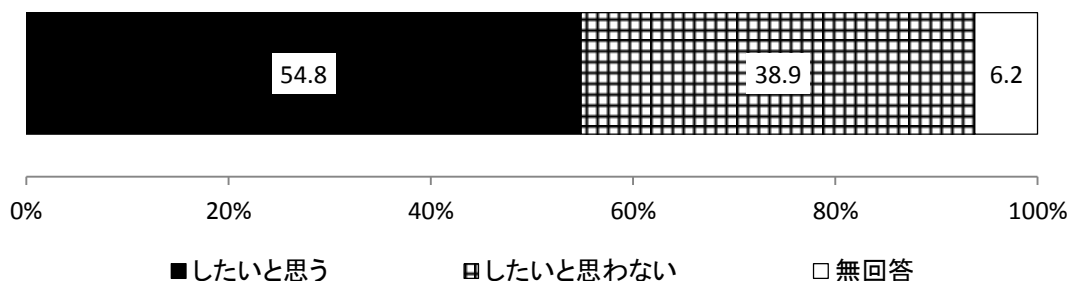
Q6-1 あなたは、地域の清掃やスポーツ行事、まちづくり、リサイクル、高齢者や障害者のための福祉、子育て支援など仕事以外で地域や社会のために活動したことはありますか。（〇は1つ）



「県民活動」の参加状況について、「活動したことがある」が58.8%、「活動したことがない」は37.6%となっている。

6-2. 今後の「県民活動」への参加意向

Q6-2 あなたは、今後このような活動をしたと思いますか。（〇は1つ）

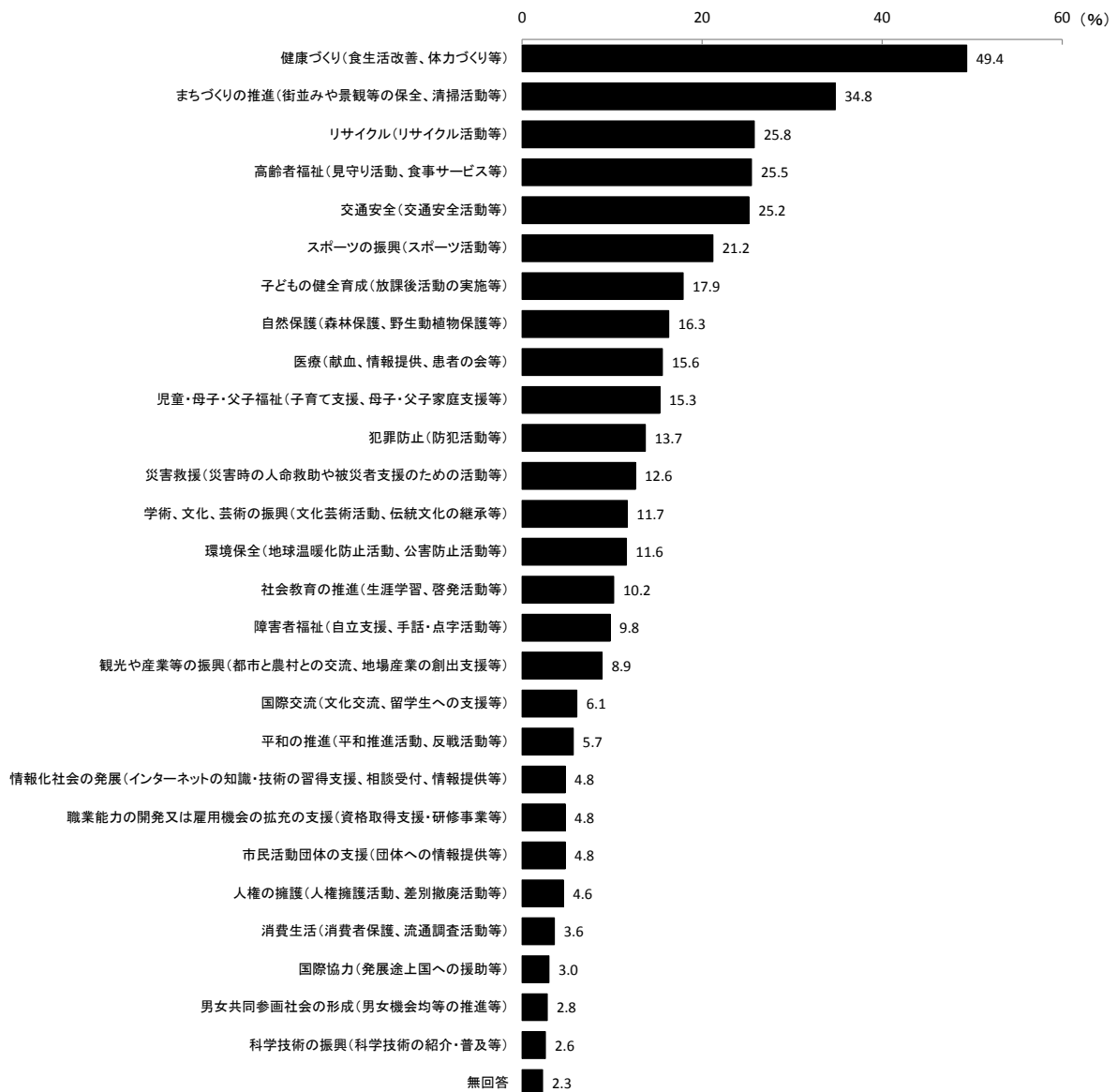


今後の「県民活動」への参加意向について、「したいと思う」が54.8%と最も高く、「したいと思わない」が38.9%となっている。

6-3. 「県民活動」を行いたい分野

【Q6-2で「1. したいと思う」と回答した方に】 (n=854)

Q6-3 どのような分野の活動をしたいと思いますか。(〇はいくつでも)

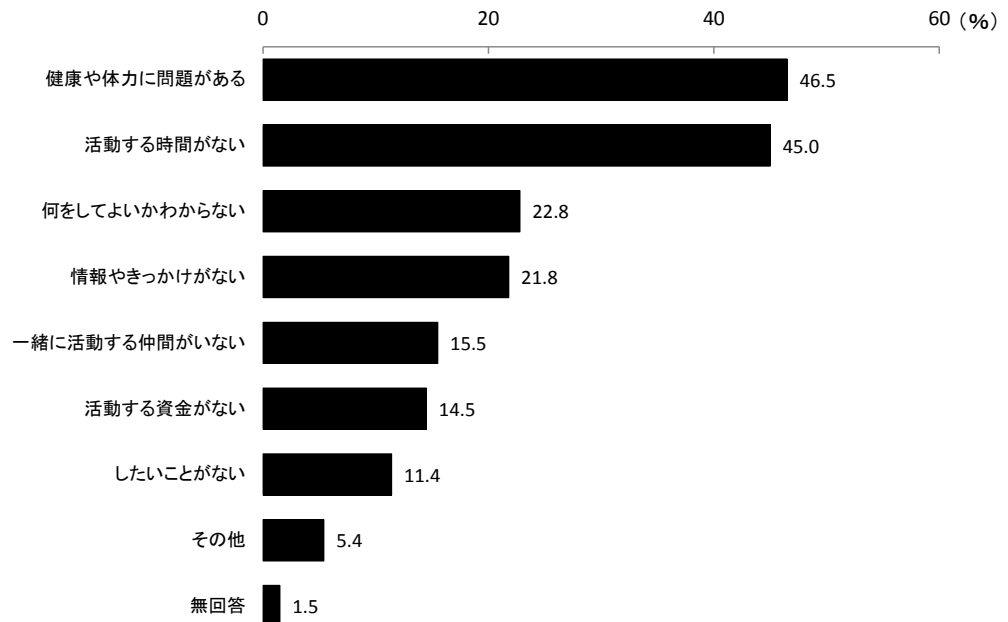


今後県民活動を「したいと思う」と回答した方に、活動したい分野について質問すると、「健康づくり(食生活改善、体力づくり等)」が49.4%で最も高く、次いで「まちづくりの推進(街並みや景観等の保全、清掃活動等)」が34.8%、「リサイクル(リサイクル活動等)」が25.8%、「高齢者福祉(見守り活動、食事サービス等)」が25.5%、「交通安全(交通安全活動等)」が25.2%の順となっている。

6-4. 「県民活動」を行いたくない理由

【Q6-2で「1. したいと思わない」と回答した方に】 (n=606)

Q6-4 したいと思わない理由を、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

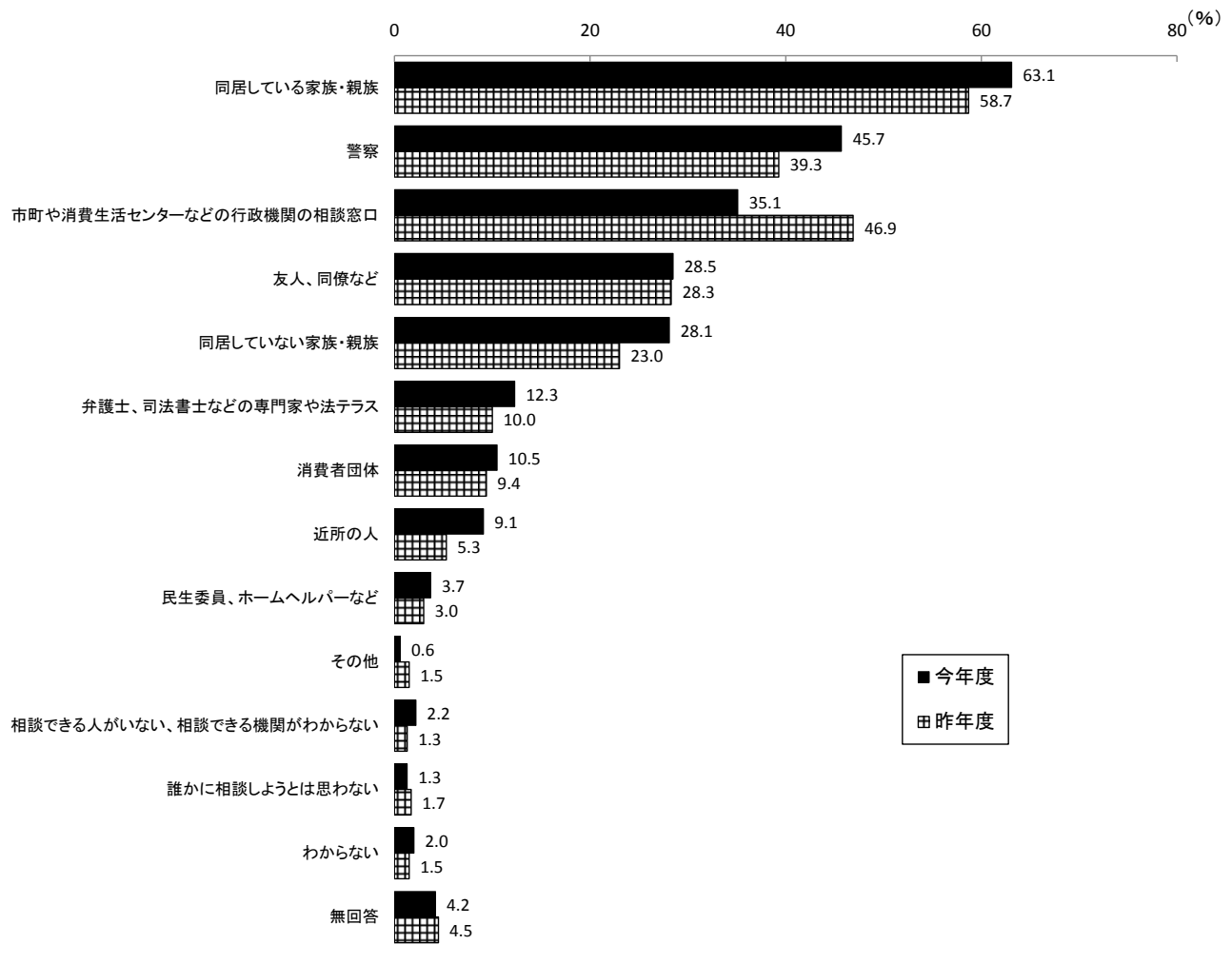


県民活動を「したいと思わない」と回答した方に、活動を行いたくない理由について質問すると、「健康や体力に問題がある」が46.5%で最も高く、次いで「活動する時間がない」が45.0%、「何をしてもよいかわからない」が22.8%、「情報やきっかけがない」が21.8%、「一緒に活動する仲間がない」が15.5%の順となっている。

7. 消費生活に関することについて

7-1. 被害を受けた時の相談相手

Q7-1 あなたは、強引な勧誘や詐欺的な勧誘を受けた場合や、そのような勧誘により契約を締結してしまった場合、誰に相談しようと思いますか。(〇はいくつでも)

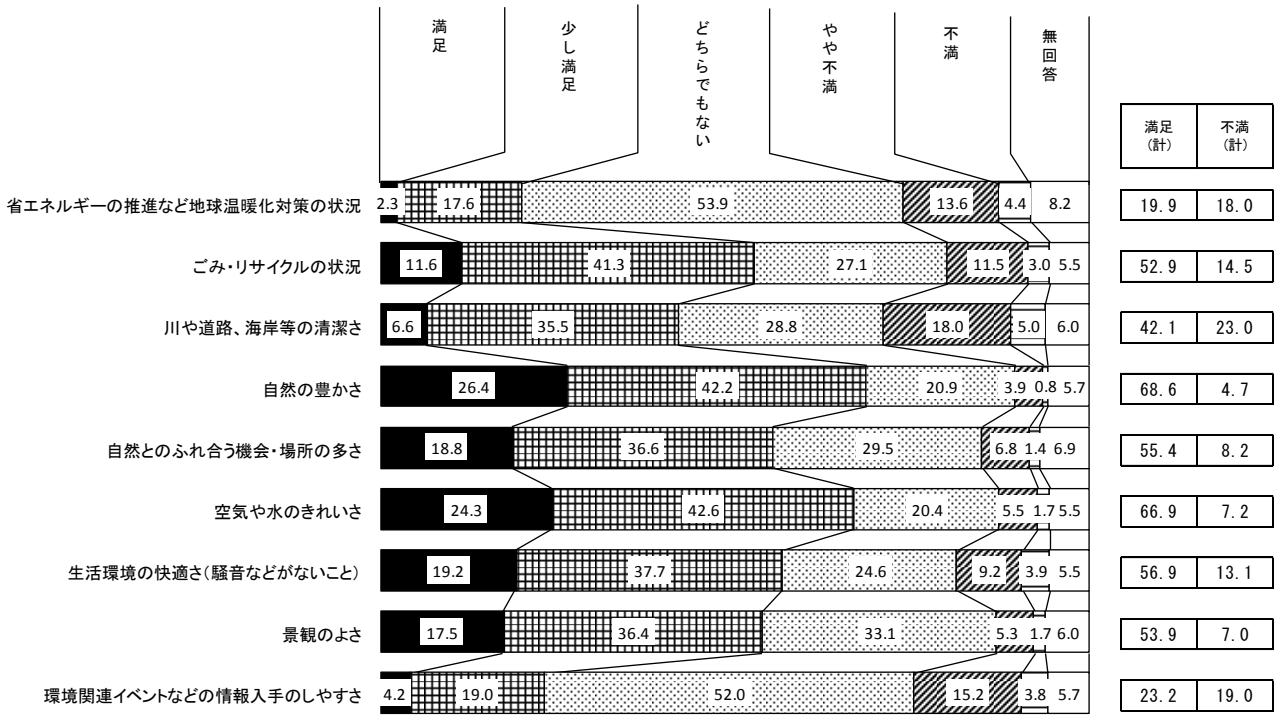


被害を受けた時の相談相手について、「同居している家族・親族」が63.1%と最も高く、次いで「警察」が45.7%、「市町や消費生活センターなどの行政機関の相談窓口」が35.1%、「友人、同僚など」が28.5%の順となっている。昨年度と比較すると、「同居している家族・親族」が4.4ポイント、「警察」が6.4ポイント、「同居していない家族・親族」が5.1ポイント上昇し、「市町や消費生活センターなどの行政機関の相談窓口」が11.8ポイント低下している。

8. 環境について

8-1. 身近な環境についての満足度

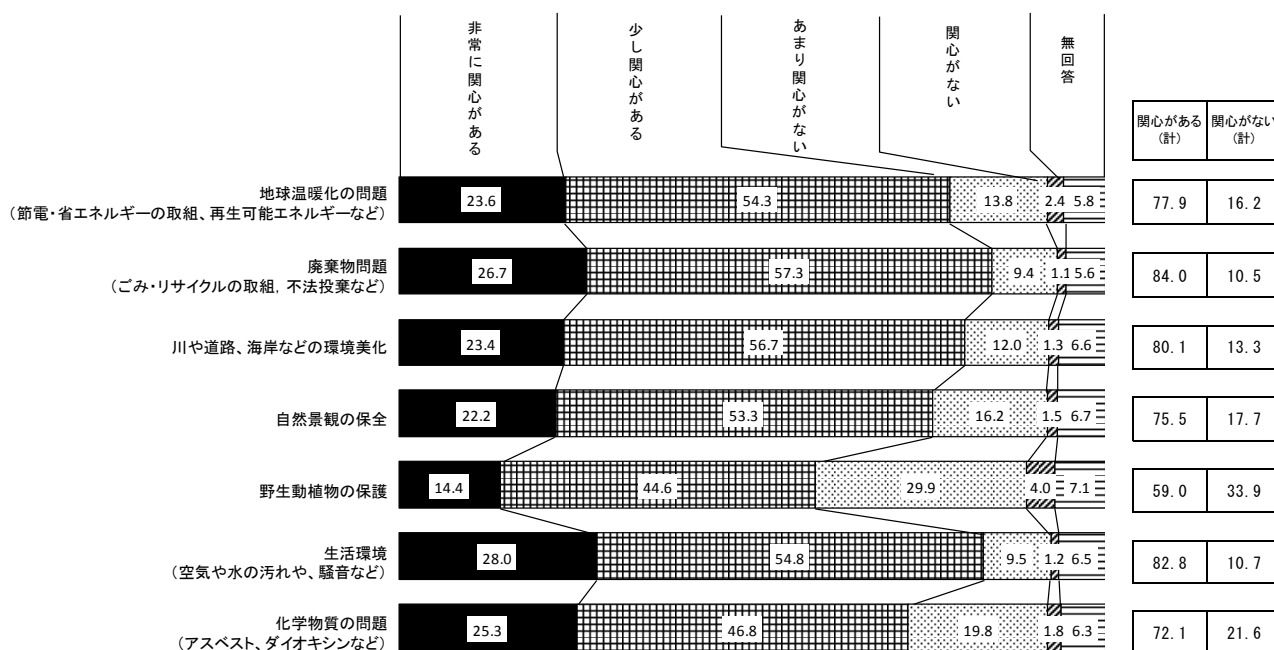
Q8-1 あなたは身近な環境について、どう思っていますか。(〇はそれぞれ1つ)



身近な環境について、「満足」と「少し満足」を合わせた『満足 (計)』は「自然の豊かさ」で68.6%と最も高く、次いで「空気や水のきれいさ」で66.9%、「生活環境の快適さ (騒音などが無いこと)」で56.9%の順となっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満 (計)』は「川や道路、海岸等の清潔さ」で23.0%、「環境関連イベントなどの情報入手のしやすさ」で19.0%、「省エネルギーの推進など地球温暖化対策の状況」で18.0%の順となっている。

8-2. 関心がある環境問題

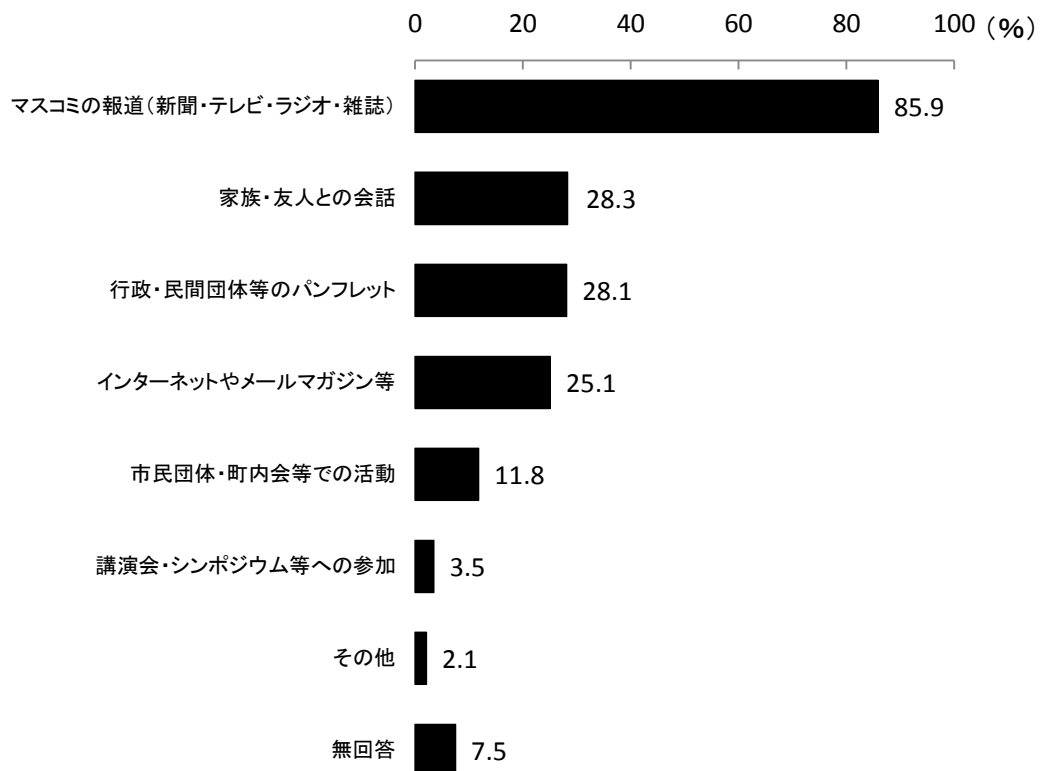
Q8-2 あなたはどのような環境の問題に関心がありますか。(〇はそれぞれ1つ)



関心がある環境問題について、「非常に関心がある」と「少し関心がある」を合わせた『関心がある(計)』は「廃棄物問題(ごみ・リサイクルの取組、不法投棄など)」で84.0%と最も高く、次いで「生活環境(空気や水の汚れや、騒音など)」で82.8%、「川や道路、海岸などの環境美化」で80.1%の順となっている。一方、「あまり関心がない」と「関心がない」を合わせた『関心がない(計)』は「野生動植物の保護」で33.9%と最も高く、次いで「化学物質の問題(アスベスト、ダイオキシンなど)」が21.6%、「自然景観の保全」で17.7%の順となっている。

8-3. 環境に関する情報の取得方法

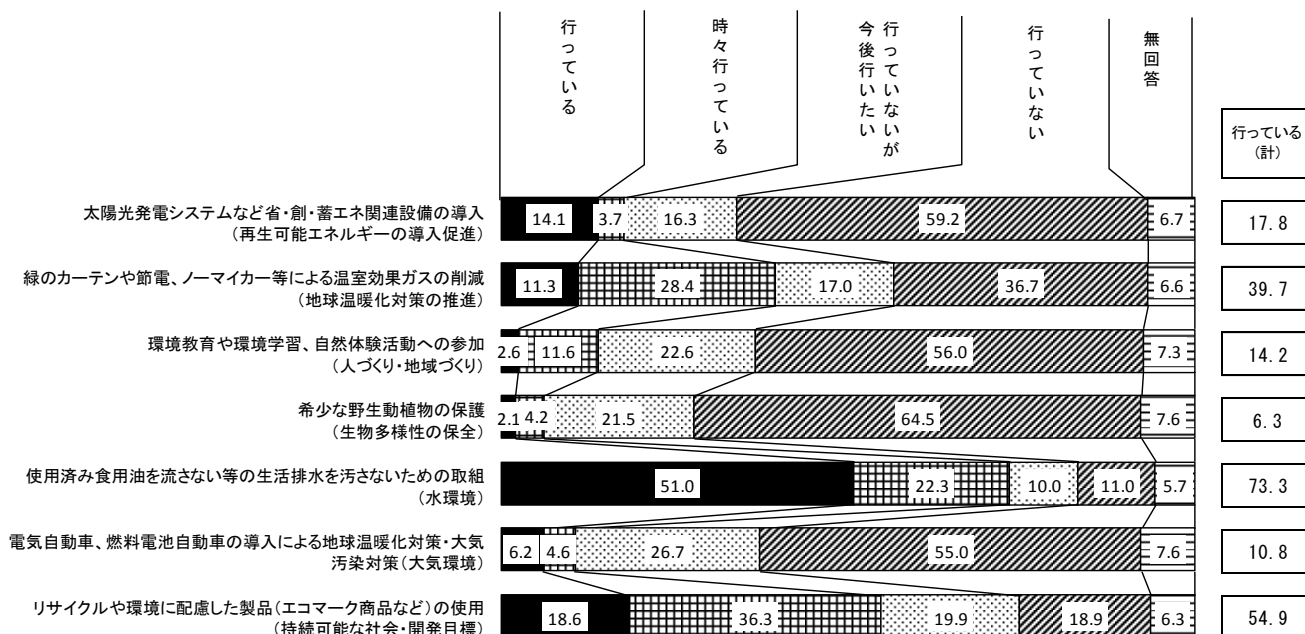
Q8-3 あなたは、環境に関する情報を何から得ていますか。(〇はいくつでも)



環境に関する情報の取得方法については、「マスコミの報道(新聞・テレビ・ラジオ・雑誌)」が85.9%で突出して高く、次いで「家族・友人との会話」が28.3%、「行政・民間団体等のパンフレット」が28.1%の順となっている。

8-4. 日頃行っている環境保全活動

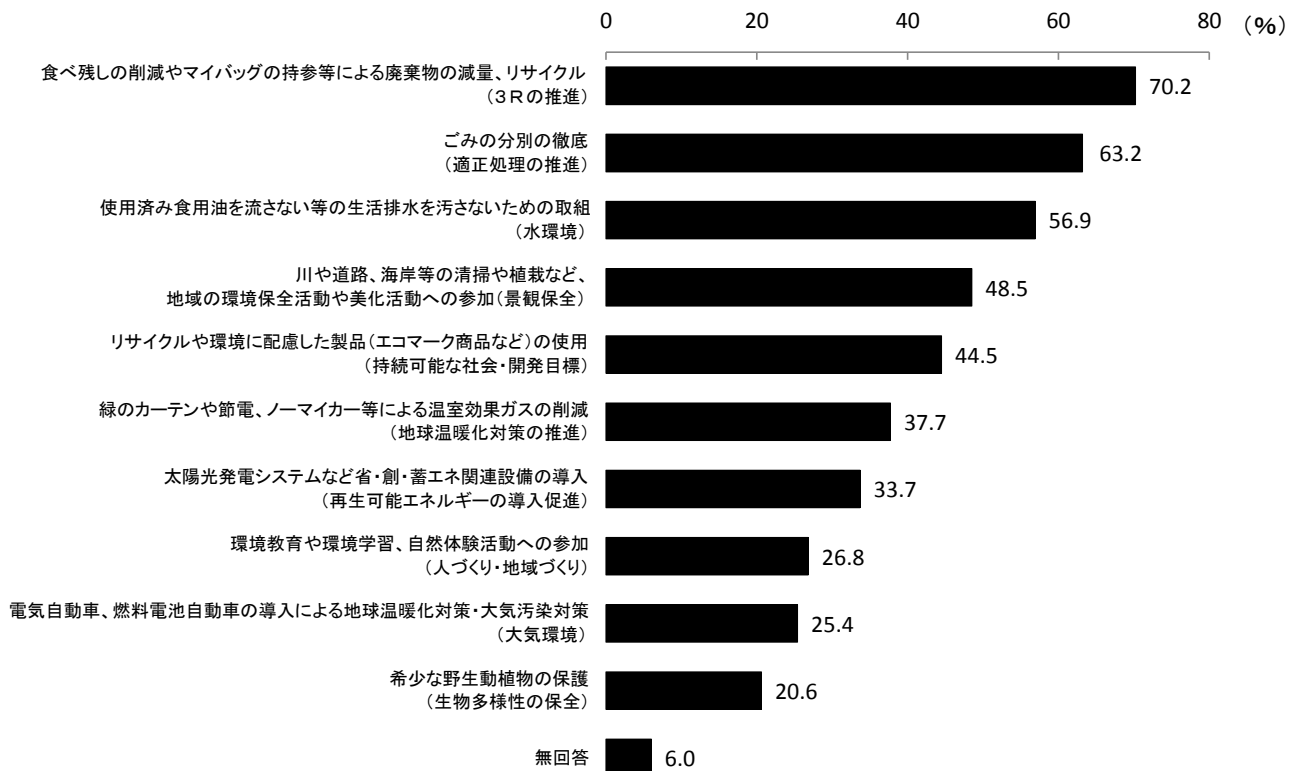
Q8-4 あなたは環境を大切にするために、日頃行っていることはありますか。(〇はそれぞれ1つ)



日頃行っている環境保全活動について、「行っている」と「時々行っている」を合わせた『行っている(計)』は「使用済み食用油を流さない等の生活排水を汚さないための取組(水環境)」が73.3%と最も高く、次いで「リサイクルや環境に配慮した製品(エコマーク商品など)の使用(持続可能な社会・開発目標)」が54.9%、「緑のカーテンや節電、ノーマイカー等による温室効果ガスの削減(地球温暖化対策の推進)」が39.7%の順となっている。

8-5. 県民が取り組むべき環境保護活動

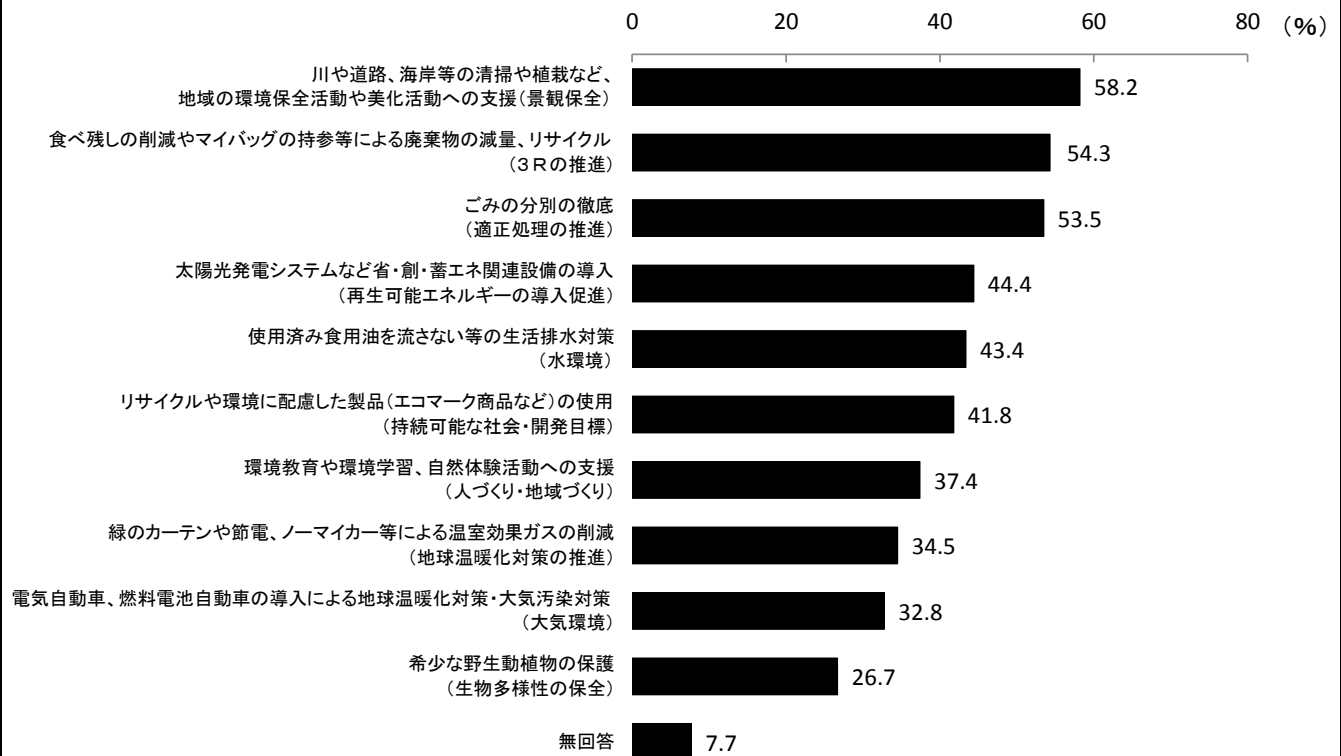
Q8-5 あなたは山口県の環境を守り、次の世代に引き継いでいくために、県民は何に取り組む必要があると思いますか。（〇はいくつでも）



県民が取り組むべき環境保護活動について、「食べ残しの削減やマイバッグの持参等による廃棄物の減量、リサイクル（3Rの推進）」が70.2%と最も高く、次いで「ごみの分別の徹底（適正処理の推進）」が63.2%、「使用済み食用油を流さない等の生活排水を汚さないための取組（水環境）」が56.9%、「川や道路、海岸等の清掃や植栽など、地域の環境保全活動や美化活動への参加（景観保全）」が48.5%の順となっている。

8-6. 行政機関が取り組むべき環境保護活動

Q8-6 あなたは山口県の環境を守り、次の世代に引き継いでいくために、行政機関（県や市町）は何に取り組む必要があると思いますか。（〇はいくつでも）

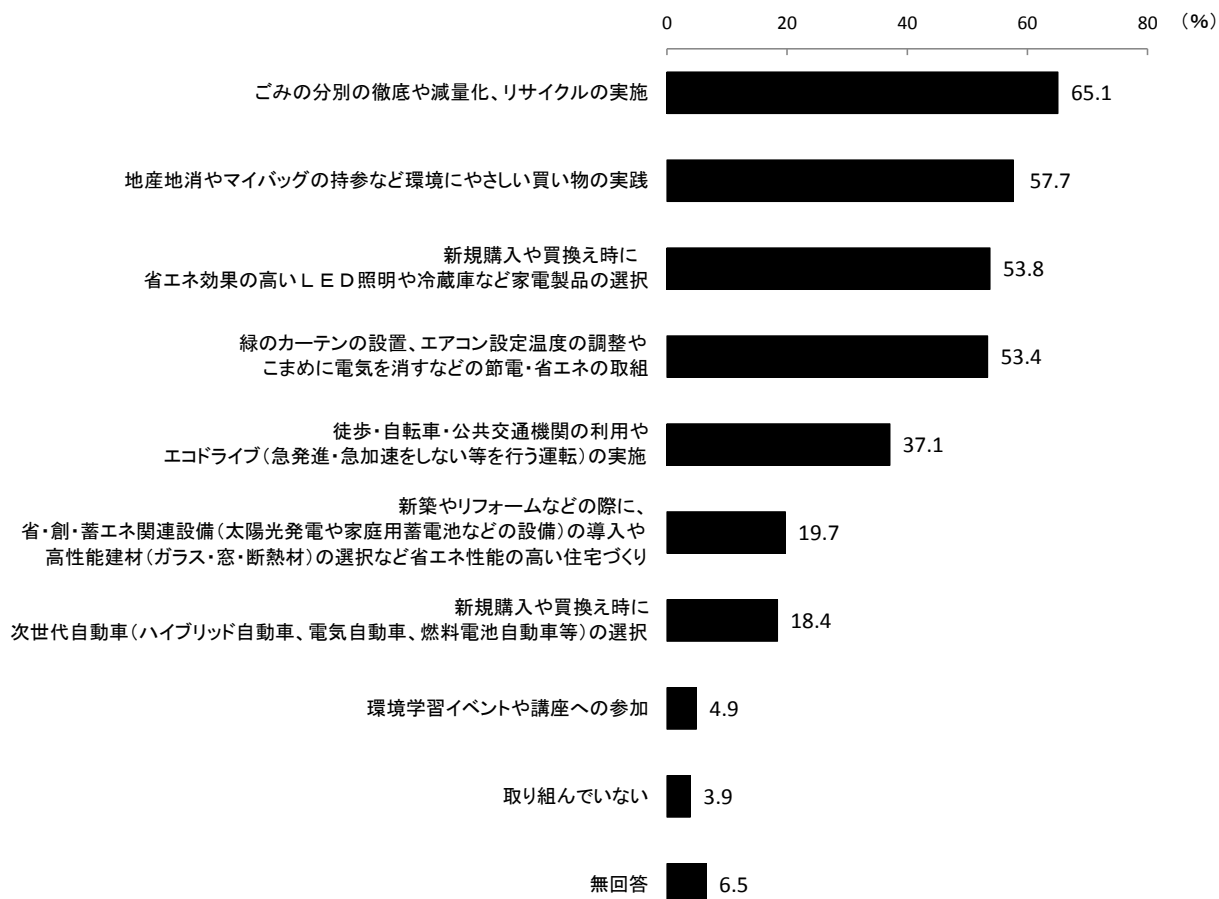


行政機関が取り組むべき環境保護活動について、「川や道路、海岸等の清掃や植栽など、地域の環境保全活動や美化活動への支援（景観保全）」が 58.2%と最も高く、次いで「食べ残しの削減やマイバッグの持参等による廃棄物の減量、リサイクル（3Rの推進）」が 54.3%、「ごみの分別の徹底（適正処理の推進）」が 53.5%、「太陽光発電システムなど省・創・蓄エネ関連設備の導入（再生可能エネルギーの導入促進）」が 44.4%の順となっている。

9. 地球温暖化防止の取組等について

9-1. 日常生活において実施している地球温暖化対策

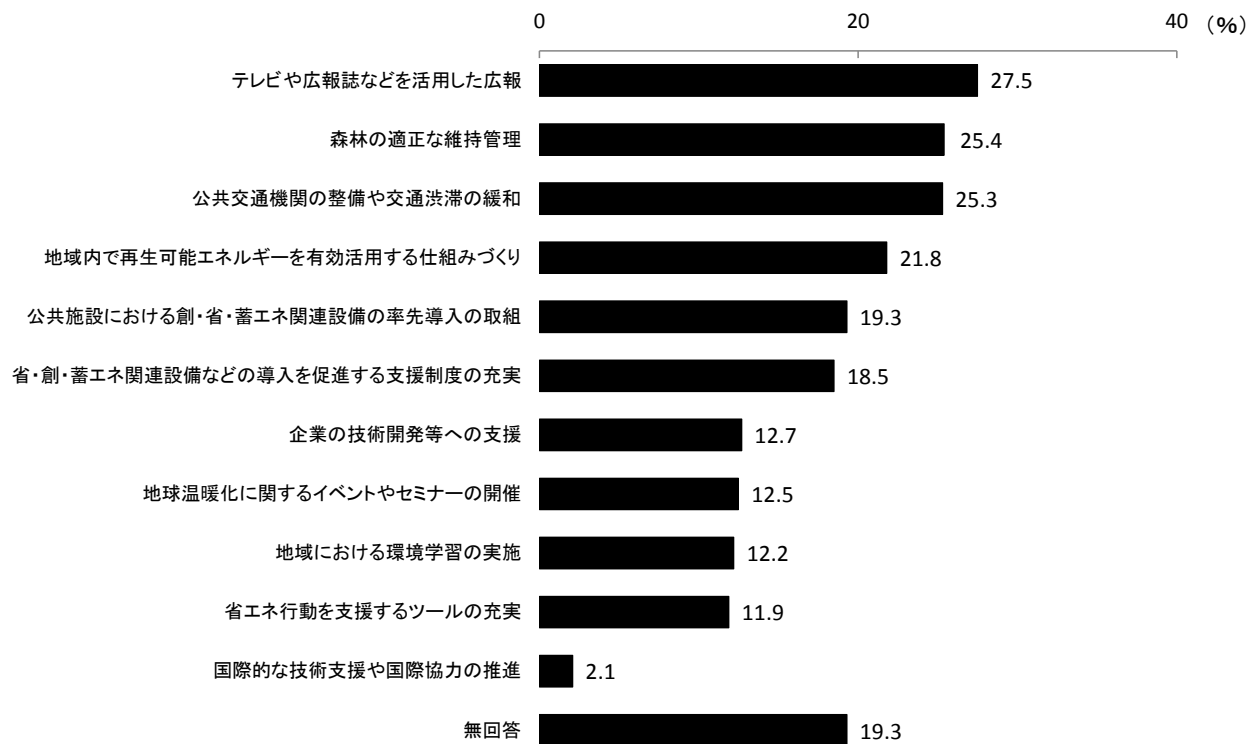
Q9-1 日常生活において、地球温暖化防止のためにどのような取組を行っていますか。(○は1つ)



日常生活において実施している地球温暖化対策について、「ごみの分別の徹底や減量化、リサイクルの実施」が65.1%と最も高く、次いで「地産地消やマイバッグの持参など環境にやさしい買い物の実践」が57.7%、「新規購入や買換え時に省エネ効果の高いLED照明や冷蔵庫など家電製品の選択」が53.8%、「緑のカーテンの設置、エアコン設定温度の調整やこまめに電気を消すなどの節電・省エネの取組」が53.4%の順となっている。

9-2. 行政機関が強化すべき地球温暖化対策

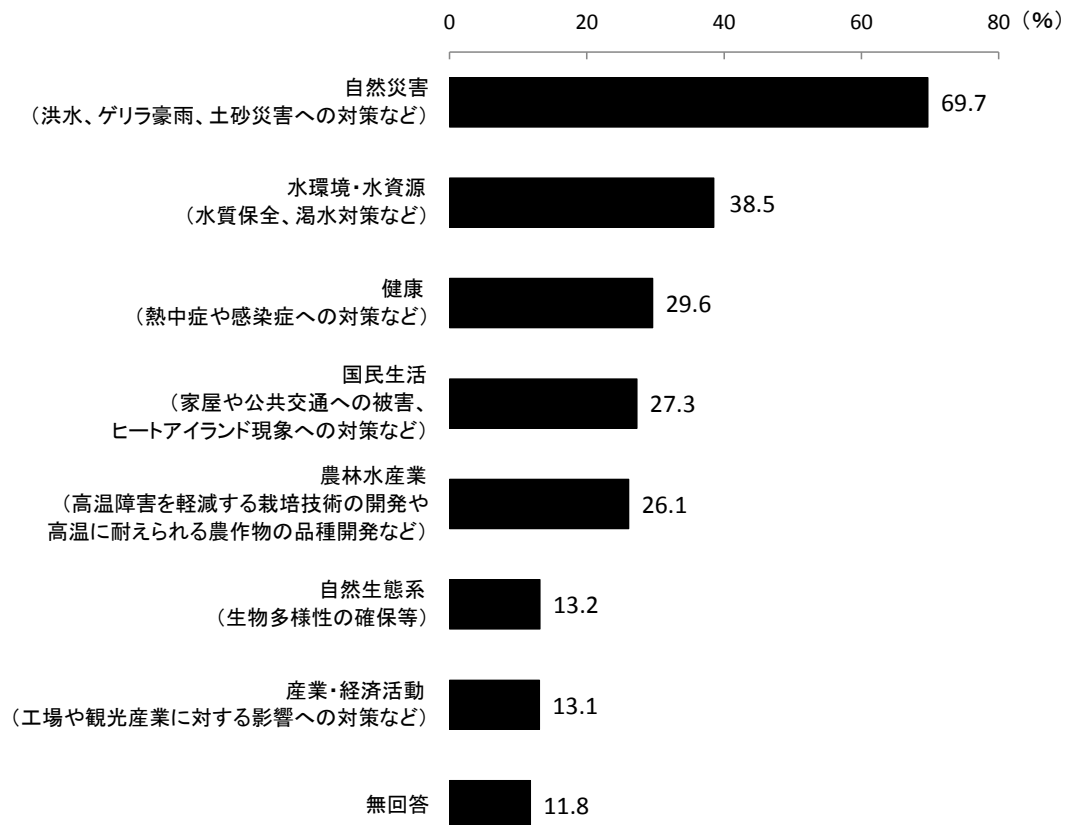
Q9-2 あなたは、地球温暖化防止のために、行政機関（県や市町）はどのような取組を強化する必要があると思いますか。（〇は3つまで）



行政機関が強化すべき地球温暖化対策は、「テレビや広報誌などを活用した広報」が 27.5%と最も高く、次いで「森林の適正な維持管理」が 25.4%、「公共交通機関の整備や交通渋滞の緩和」が 25.3%、「地域内で再生可能エネルギーを有効活用する仕組みづくり」が 21.8%、「公共施設における創・省・蓄エネ関連設備の率先導入の取組」が 19.3%、「省・創・蓄エネ関連設備などの導入を促進する支援制度の充実」が 18.5%の順となっている。

9-3. 県が優先的に進めていくべき適応策

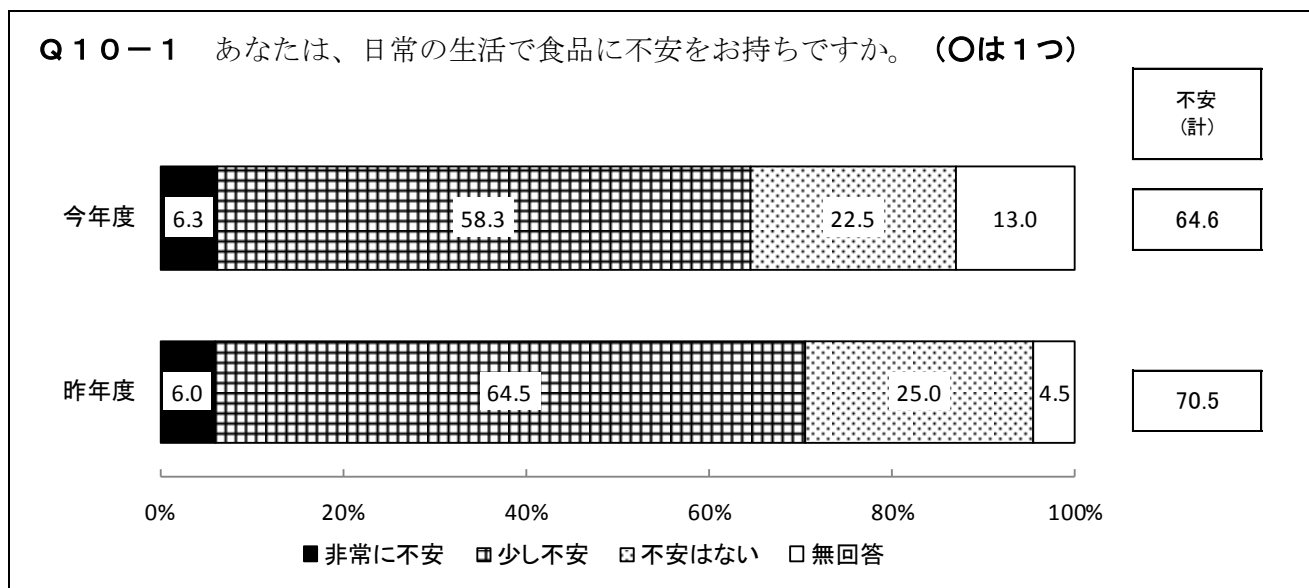
Q9-3 地球温暖化による影響や被害に備えた対策をとる「適応」という考えがあります。地球温暖化による気候変動の影響に対処するために、県が優先的に進めていくべき適応策はどの分野だと考えますか。（〇は3つまで）



県が優先的に進めていくべき適応策は、「自然災害（洪水、ゲリラ豪雨、土砂災害への対策など）」が69.7%と最も高く、次いで「水環境・水資源（水質保全、渇水対策など）」が38.5%、「健康（熱中症や感染症への対策など）」が29.6%、「国民生活（家屋や公共交通への被害、ヒートアイランド現象への対策など）」が27.3%、「農林水産業（高温障害を軽減する栽培技術の開発や高温に耐えられる農作物の品種開発など）」が26.1%の順となっている。

10. 食の安心・安全について

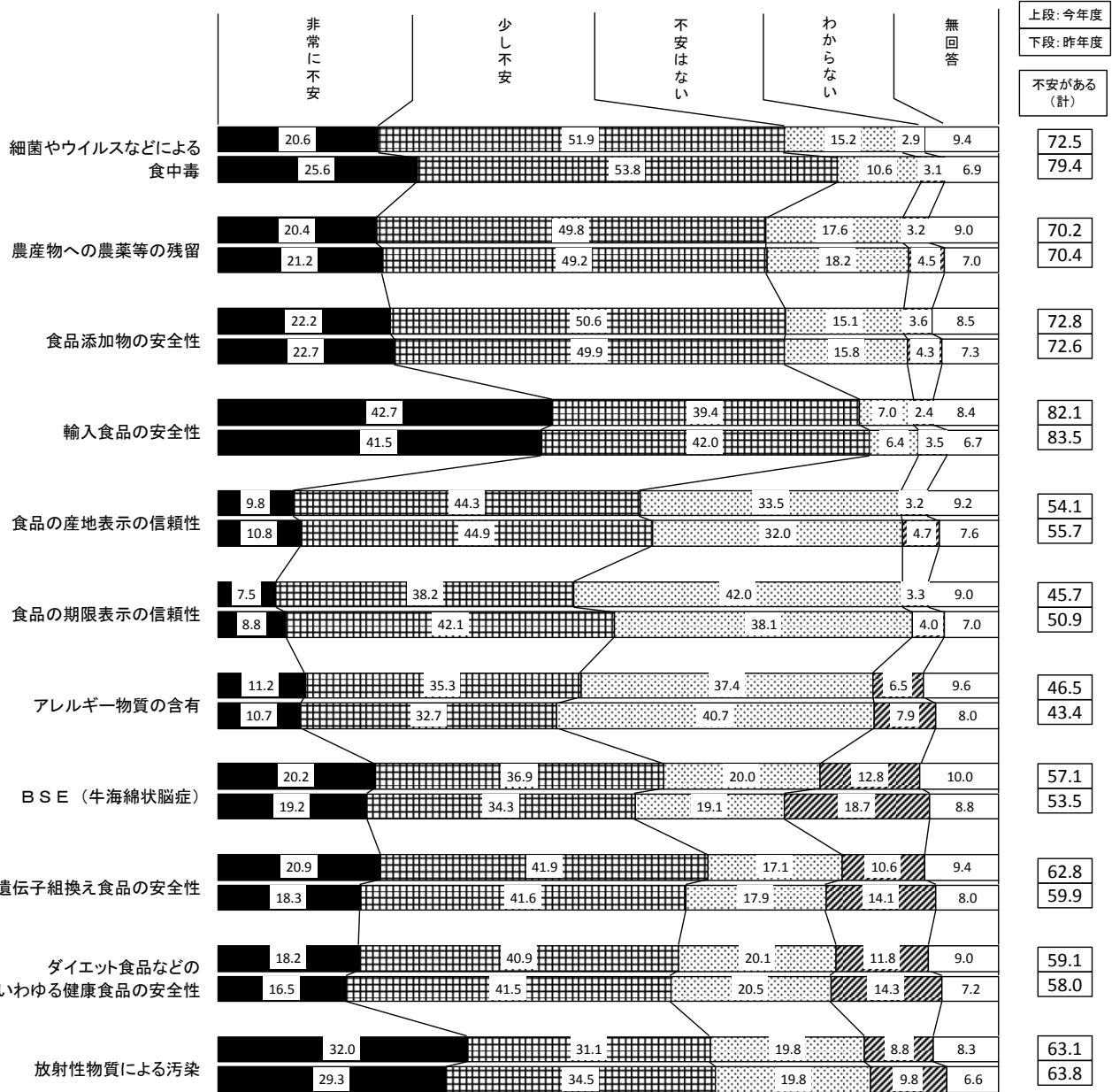
10-1. 食品に対する不安



食品に対する不安について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は64.6%と6割を超えている。昨年度と比較すると、『不安(計)』は5.9ポイント低下している。

10-2. 食品に対する不安の要因

Q10-2 あなたは食品について、どのようなことに不安をお持ちですか。
 いずれか1つを○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

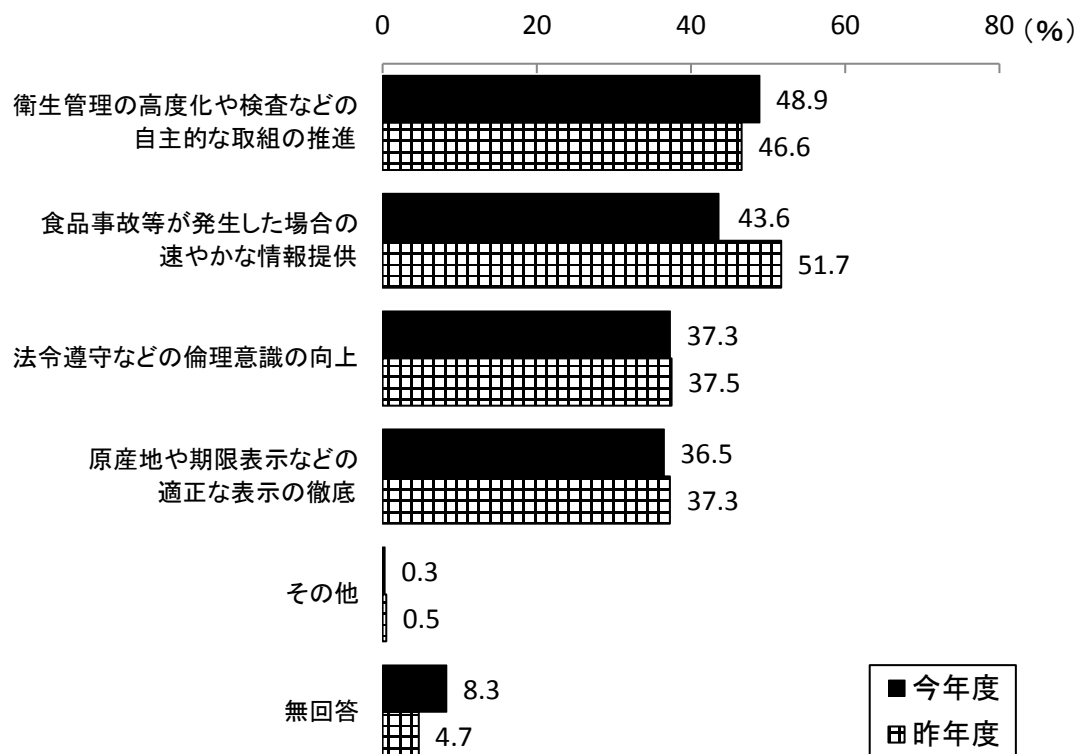


食品に対する不安の要因について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は、「輸入食品の安全性」で82.1%と最も高くなっている。昨年度と比較すると、「細菌やウイルスなどによる食中毒」は6.9ポイント、「食品の期限表示の信頼性」は5.2ポイント『不安(計)』が低下している。

10-3. 安全で安心な食生活を送るために必要な取組

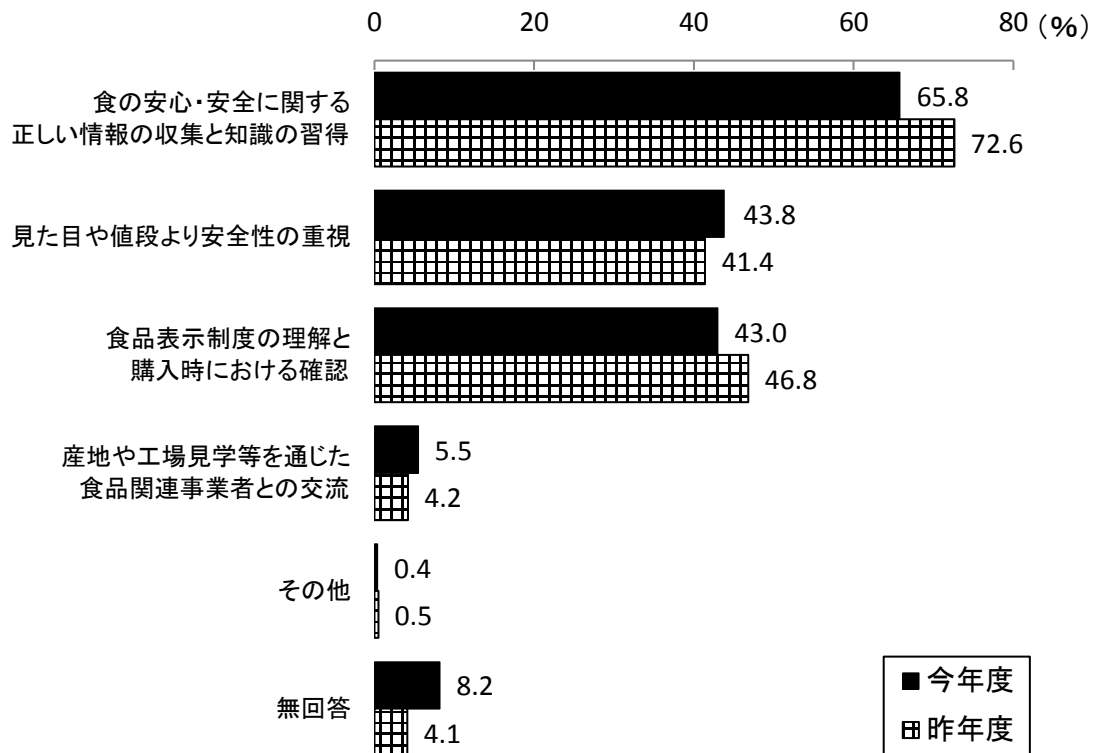
Q10-3 あなたは、県民が安全で安心な食生活を送るために、「食品関連事業者（生産者、製造・加工者、販売者）」、「消費者」、「県」は、それぞれどのような取組が必要だと思いますか。

(1) 食品関連事業者に望む取組 (〇は2つまで)

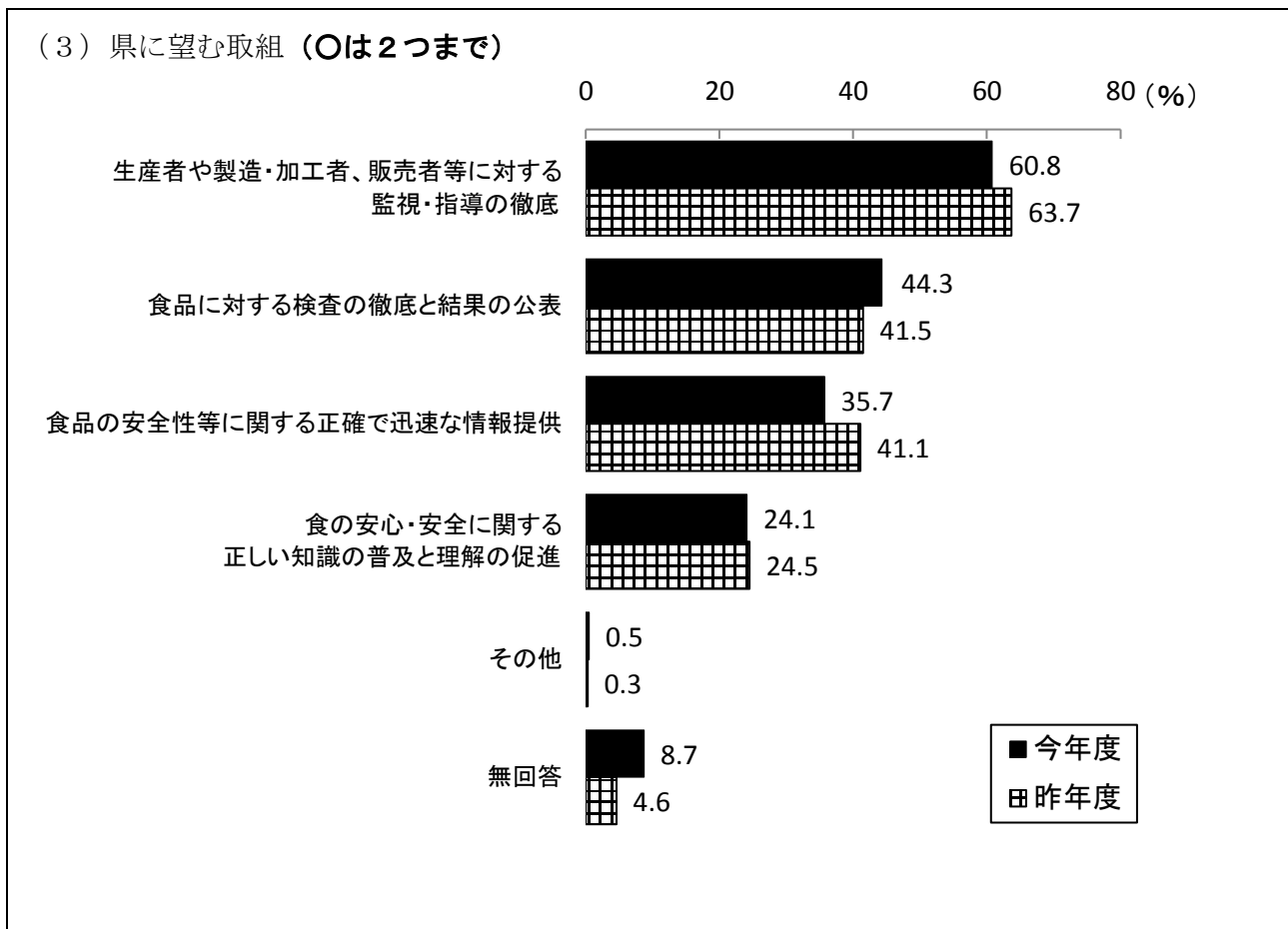


安全で安心な食生活を送るために「食品関連事業者」に望む取組について、「衛生管理の高度化や検査などの自主的な取組の推進」が48.9%と最も高く、次いで「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が43.6%、「法令遵守などの倫理意識の向上」が37.3%、「原産地や期限表示などの適正な表示の徹底」が36.5%の順となっている。昨年度と比較すると、「衛生管理の高度化や検査などの自主的な取組の推進」が2.3ポイント上昇し、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が8.1ポイント低下している。

(2) 消費者に必要な取組 (〇は2つまで)



安全で安心な食生活を送るために「消費者」に必要な取組について、「食の安心・安全に関する正しい情報の収集と知識の習得」が65.8%と最も高く、次いで「見た目や値段より安全性の重視」が43.8%、「食品表示制度の理解と購入時における確認」が43.0%、「産地や工場見学等を通じた食品関連事業者との交流」が5.5%の順となっている。昨年度と比較すると、「見た目や値段より安全性の重視」が2.4ポイント上昇している。



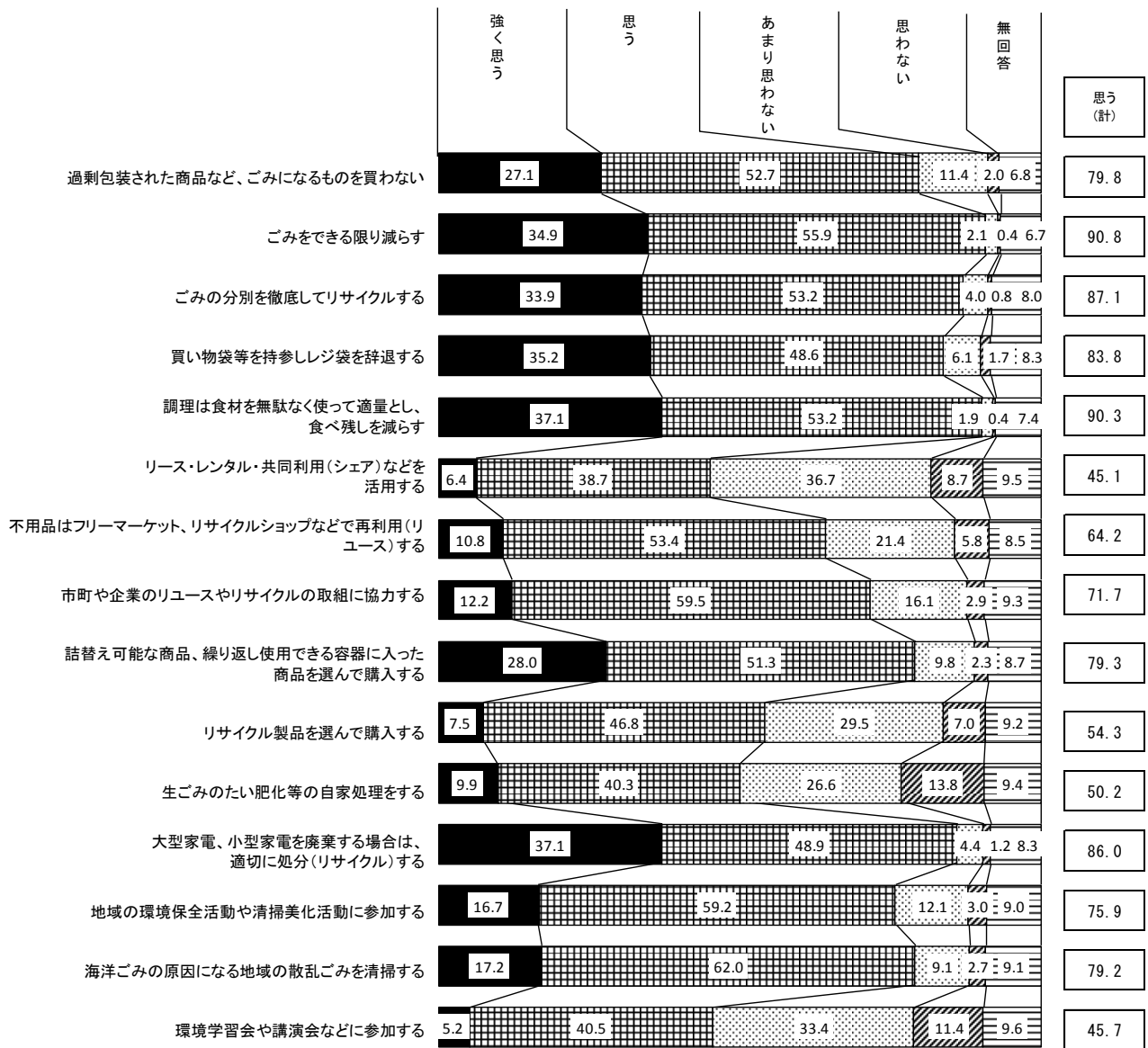
安全で安心な食生活を送るために「県」に望む取組について、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」が60.8%と最も高く、次いで「食品に対する検査の徹底と結果の公表」が44.3%、「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」が35.7%、「食の安心・安全に関する正しい知識の普及と理解の促進」が24.1%の順となっている。昨年度と比較すると、「食品に対する検査の徹底と結果の公表」が2.8ポイント上昇している。

1 1. 循環型社会について

「循環型社会づくり」とは、大量生産・大量消費・大量廃棄を改め、廃棄物をなるべく出さず（発生抑制）、できるだけ資源として再利用し（リサイクル）、利用できない廃棄物は適正に処分することで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷をできる限り減らす社会づくりのことをいいます。

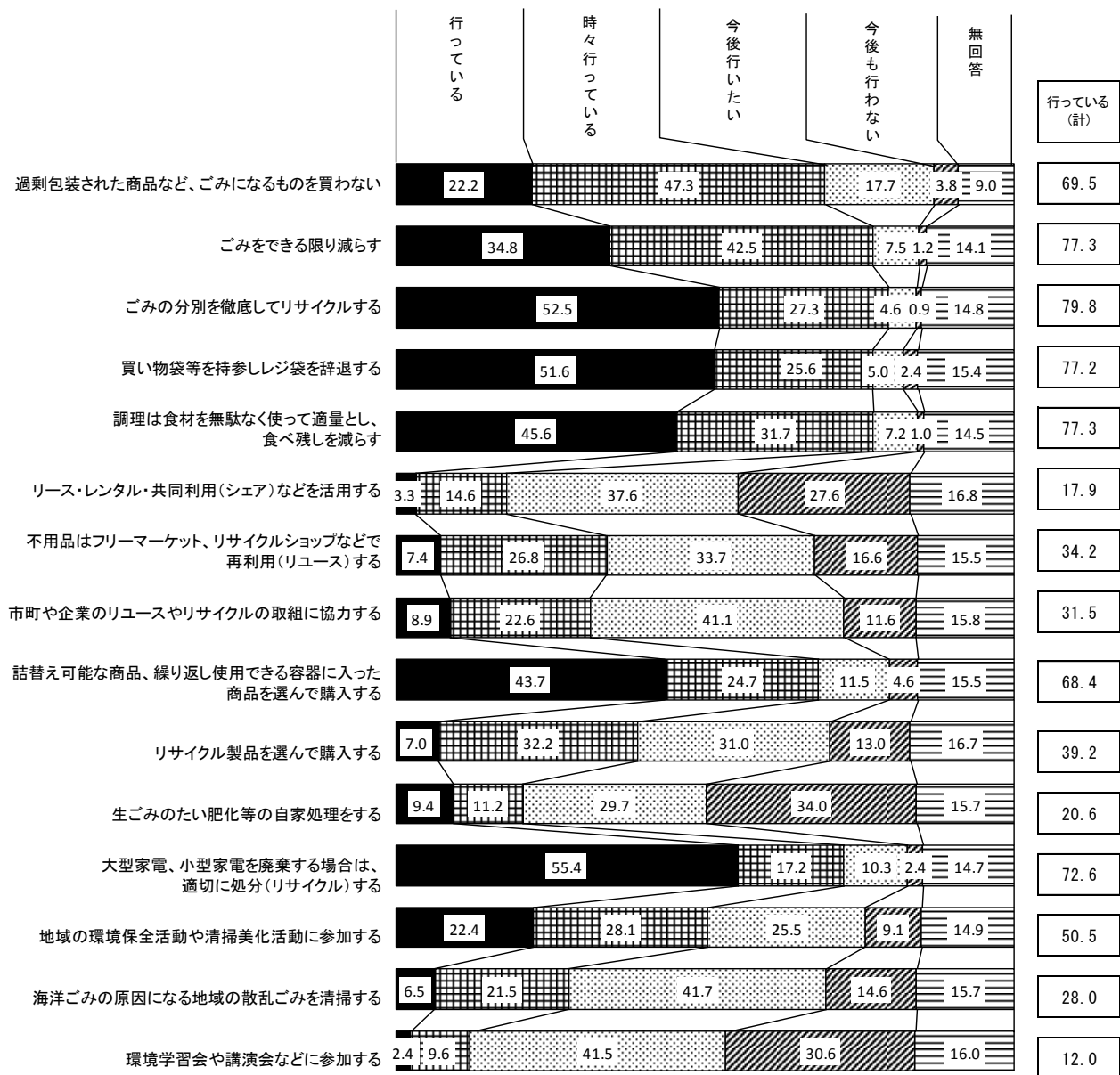
1 1-1. 循環型社会づくりのために実施すべきと考える取組及び実施状況

Q 1 1-1 (1) 循環型社会づくりのために、次の取組をすべきと思いますか。(○は1つ)



循環型社会づくりのために実施すべきと考える取組について、「強く思う」と「思う」を合わせた『思う(計)』は「ごみをできる限り減らす」が90.8%で最も高く、次いで「調理は食材を無駄なく使って適量とし、食べ残しを減らす」が90.3%、「ごみの分別を徹底してリサイクルする」が87.1%の順となっている。

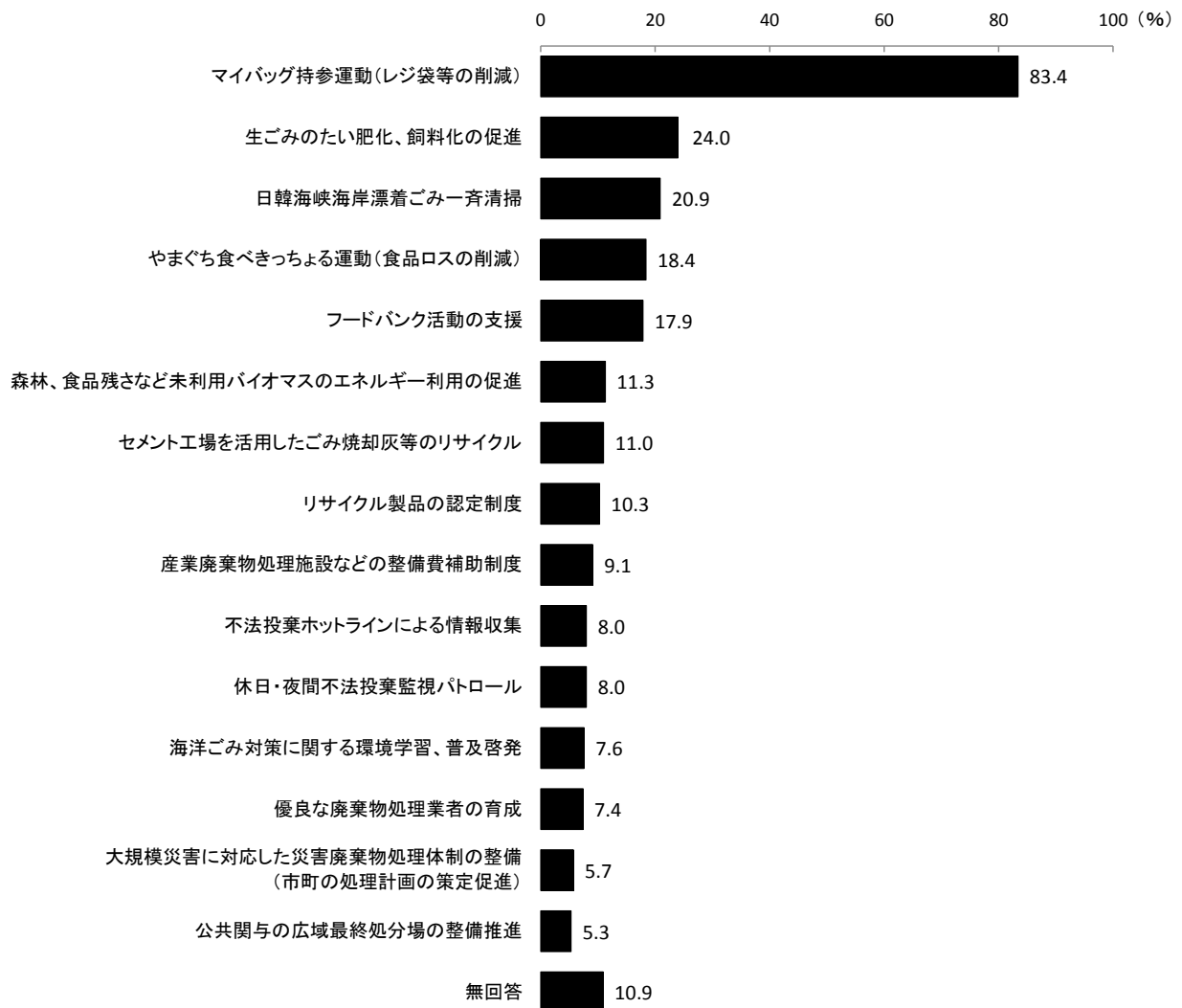
Q11-1 (2) あなたは、日常的に次の取組を行っていますか。(〇は1つ)



日常的に行っている取組について、「行っている」と「時々行っている」を合わせた『行っている (計)』は「ごみの分別を徹底してリサイクルする」が 79.8%で最も高く、次いで「ごみをできる限り減らす」と「調理は食材を無駄なく使って適量とし、食べ残しを減らす」が 77.3% (同率)、「買い物袋等を持参しレジ袋を辞退する」が 77.2%の順となっている。

11-2. 循環型社会づくりに向けた県の取組の認知状況

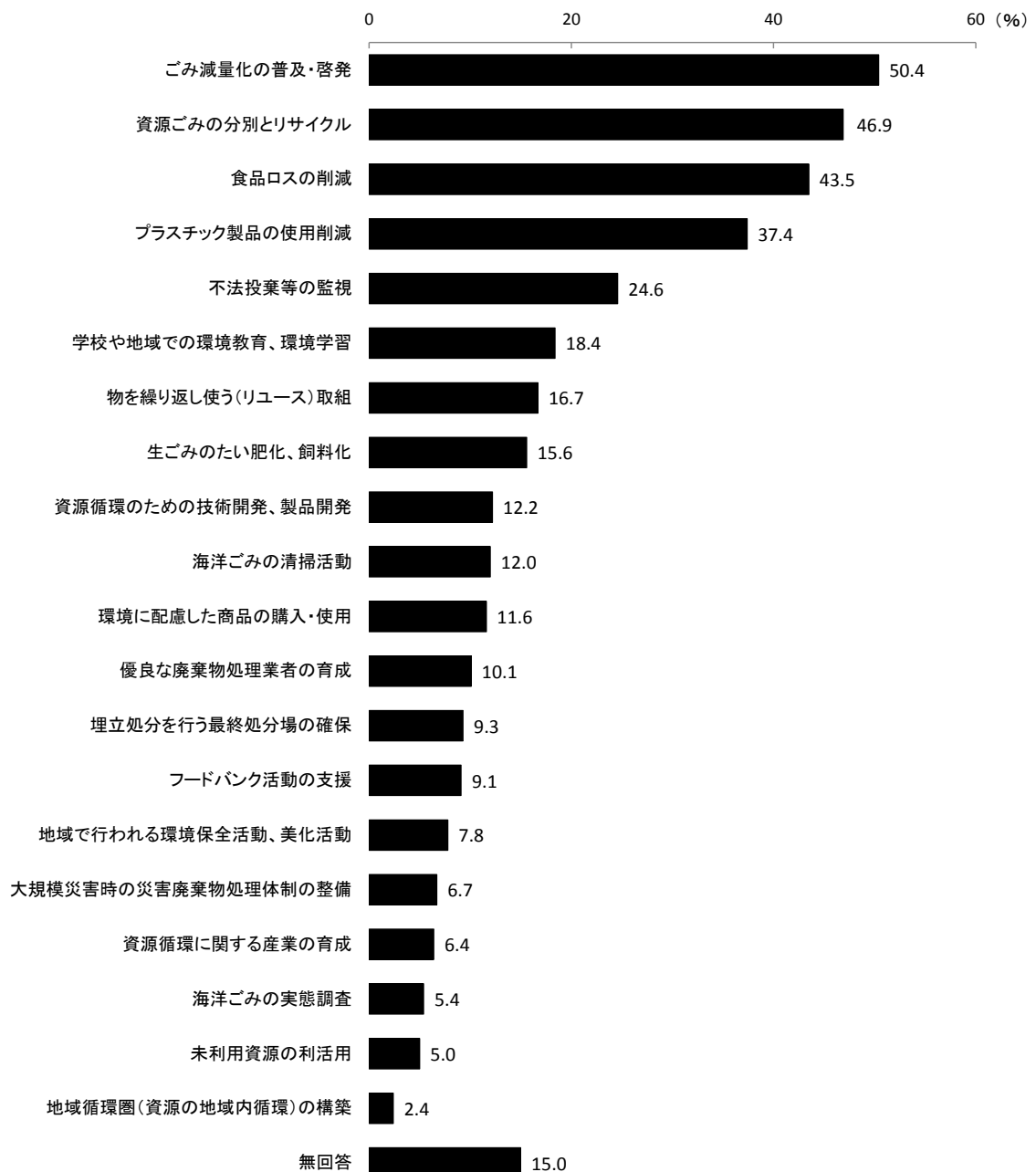
Q11-2 循環型社会づくりに向けた県の取組のうち、どの取組をご存じですか。(〇はいくつでも)



循環型社会づくりに向けた県の取組で知っているものは、「マイバッグ持参運動（レジ袋等の削減）」が 83.4%と突出して高く、「生ごみのたい肥化、飼料化の促進」が 24.0%、「日韓海峡海岸漂着ごみ一斉清掃」が 20.9%、「やまぐち食べきっちよる運動（食品ロスの削減）」が 18.4%、「フードバンク活動の支援」が 17.9%の順となっている。

11-3. 循環型社会づくりのために、今後強化すべきと考える取組

Q11-3 あなたは、循環型社会づくりのために、今後どのような取組を強化する必要があると思いますか。(〇は5つまで)



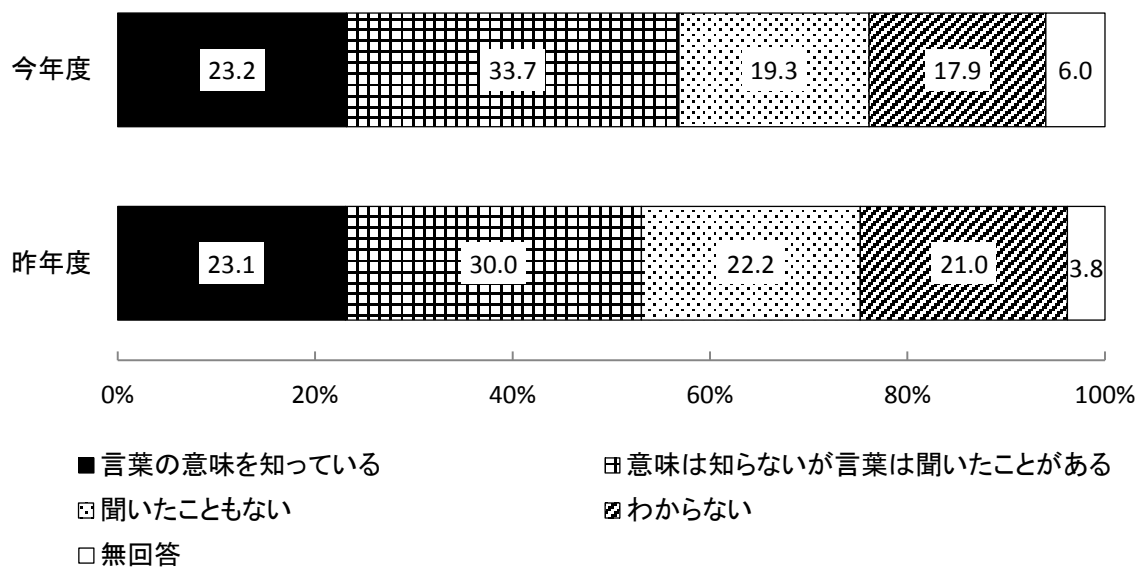
循環型社会づくりのために、今後強化すべきと考える取組は、「ごみ減量化の普及・啓発」が50.4%で最も高く、「資源ごみの分別とリサイクル」が46.9%、「食品ロスの削減」が43.5%、「プラスチック製品の使用削減」が37.4%、「不法投棄等の監視」が24.6%の順となっている。

12. 生物多様性について

「生物多様性」とは、様々な生き物がいたり、山・川・海など生き物が暮らせる豊かな自然があることです。この生物多様性は、私たちの豊かな暮らしに欠かせない多くの自然の恵みをもたらしてくれます。

12-1. 「生物多様性」の認知状況

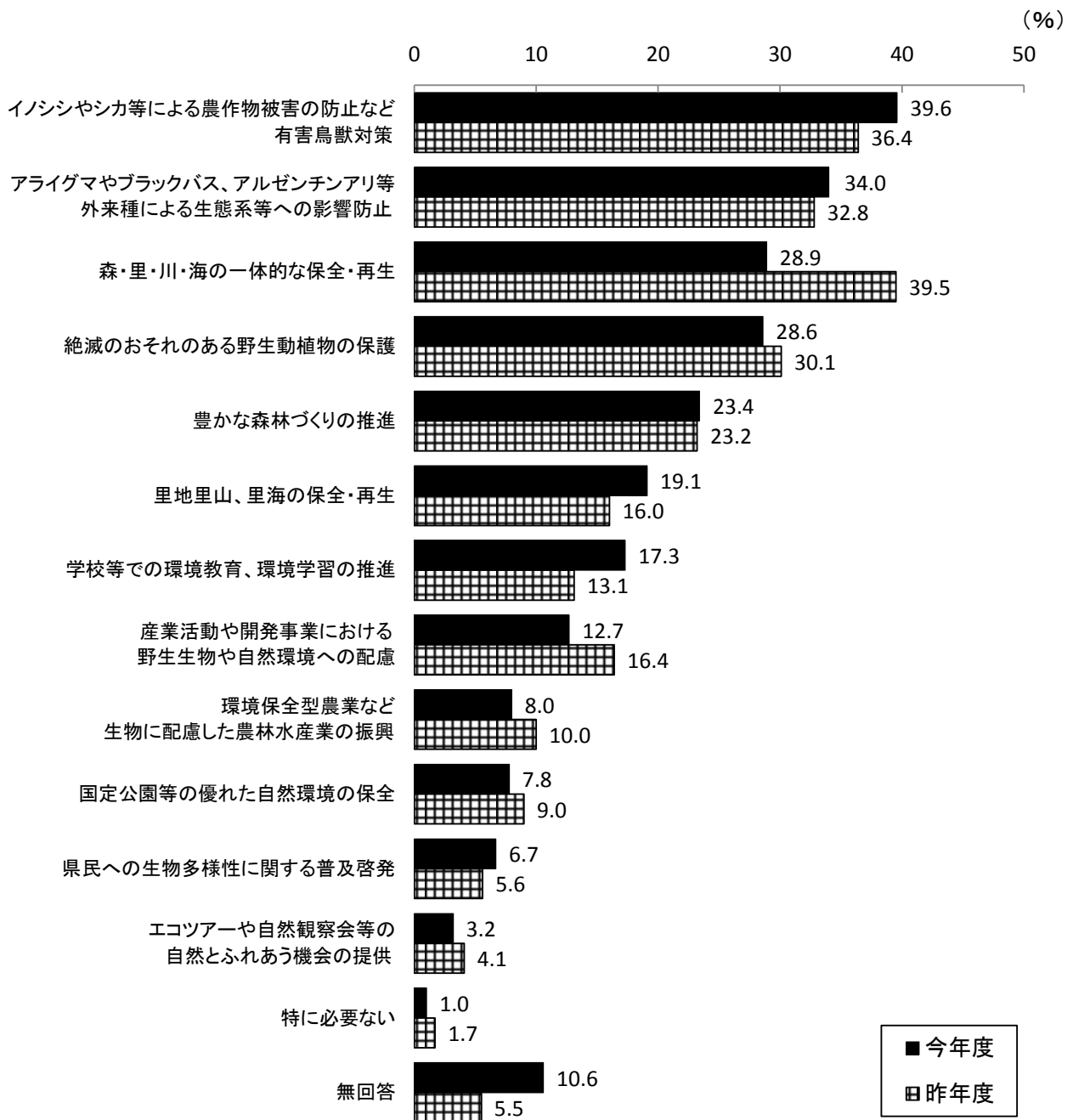
Q12-1 あなたは、「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。(〇は1つ)



「生物多様性」の認知状況について、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が33.7%と最も高く、次いで「言葉の意味を知っている」が23.2%、「聞いたこともない」が19.3%、「わからない」が17.9%の順となっている。昨年度と比較すると、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が3.7ポイント上昇している。

12-2. 生物多様性を守るために必要な取組

Q12-2 生物多様性を守っていくために、どのような取組が必要だと思いますか。
(〇は3つまで)



生物多様性を守るための必要な取組について、「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」が39.6%と最も高く、次いで「アライグマやブラックバス、アルゼンチンアリ等外来種による生態系等への影響防止」が34.0%、「森・里・川・海の一体的な保全・再生」が28.9%、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が28.6%、「豊かな森林づくりの推進」が23.4%の順となっている。昨年度と比較すると、「学校等での環境教育、環境学習の推進」は4.2ポイント上昇した一方、「森・里・川・海の一体的な保全・再生」は10.6ポイント低下している。

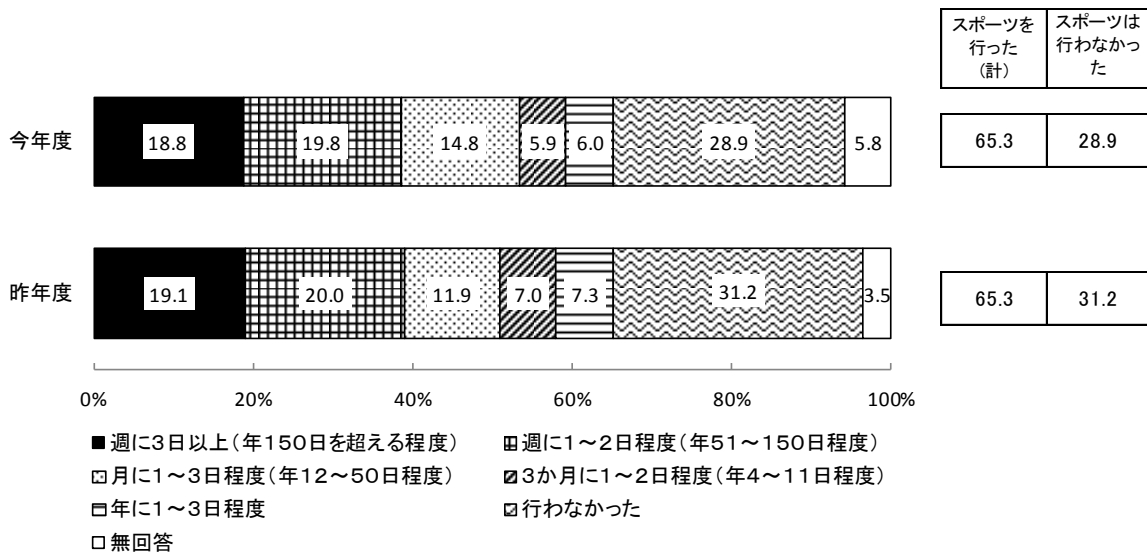
13. 運動・スポーツ活動の実施状況について

13-1. 運動・スポーツの実施頻度

Q13-1 あなたは、過去1年間に、どの程度、「運動・スポーツ」を行いましたか。

(〇は1つ)

※「運動・スポーツ」：陸上競技・水泳・球技・武道・マリンスポーツ、ウィンタースポーツ等の他、グラウンドゴルフ・ソフトバレー等のレクリエーションスポーツ、サイクリング、トレッキング・釣り等のアウトドアスポーツ、ウォーキングや軽い体操、運動を目的とした自転車や徒歩での通勤・通学等を含みます

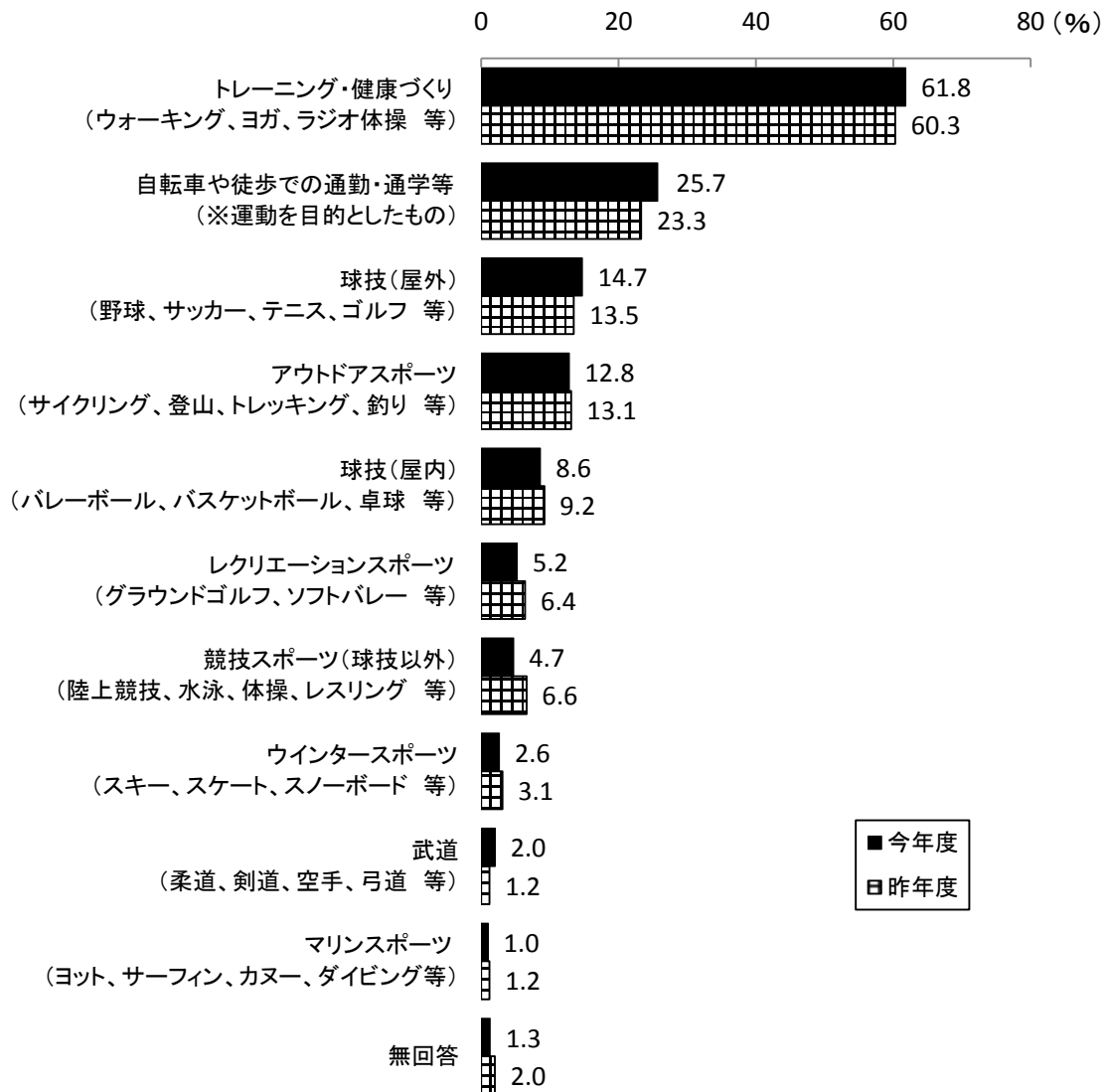


運動・スポーツの実施頻度について質問すると、「行わなかった」が28.9%であるが、昨年度と比較して2.3ポイント低下している。次いで「週に1~2日程度(年51~150日程度)」が19.8%、「週に3日以上(年150日を超える程度)」が18.8%などとなっている。

13-2. どのような運動・スポーツを行ったか

【Q13-1で「1~5. 行った」と回答した方に】 (n=1,017)

Q13-2 どのような「運動・スポーツ」を行いましたか。(〇はいくつでも)

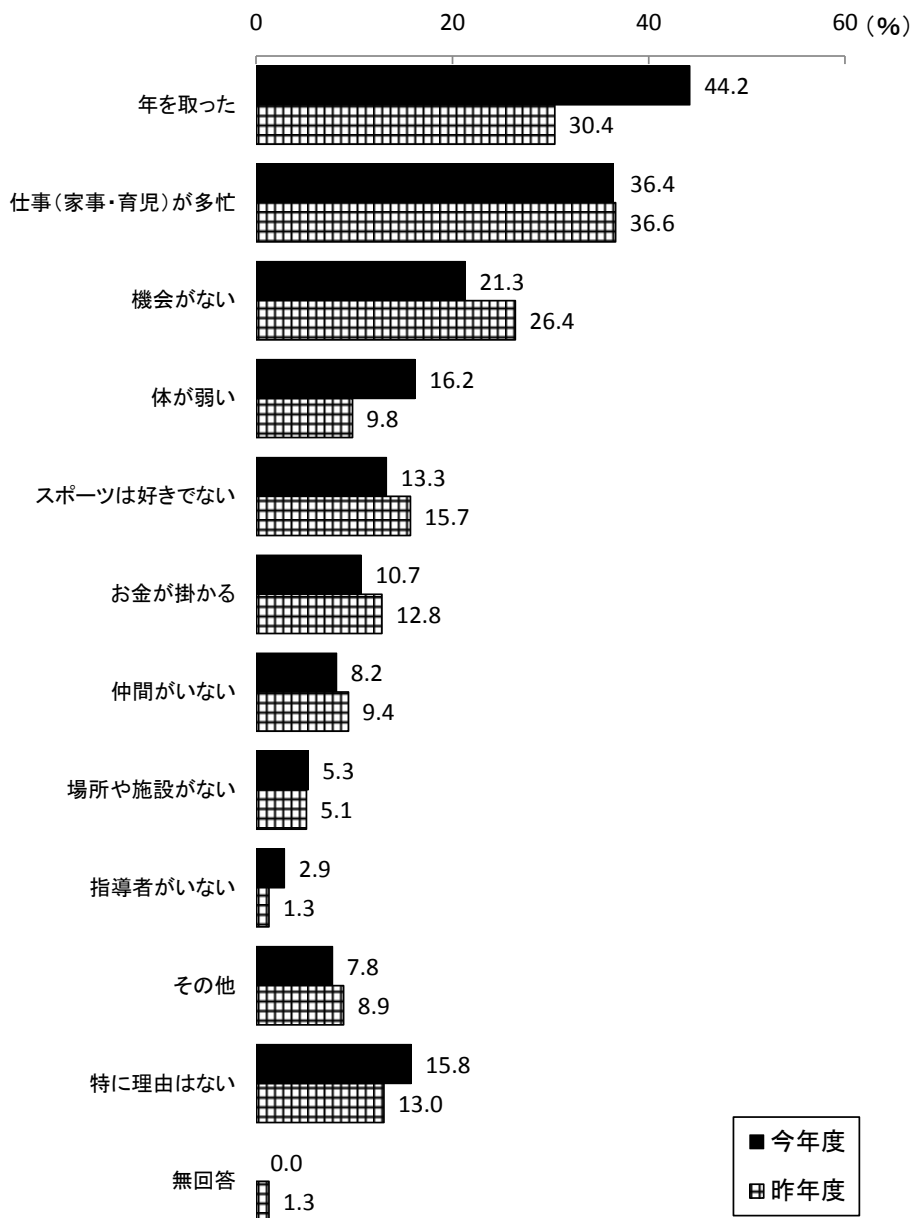


Q13-1で「行った」と回答した人に、どのような運動・スポーツを行ったか質問すると、「トレーニング・健康づくり」が61.8%と最も高く、次いで「自転車や徒歩での通勤・通学等」が25.7%、「球技(屋外)」が14.7%、「アウトドアスポーツ」が12.8%の順となっている。

13-3. 運動・スポーツを行わなかった理由

【Q13-1で「6. 行わなかった」と回答した方に】 (n=450)

Q13-3 「運動・スポーツ」を行わなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

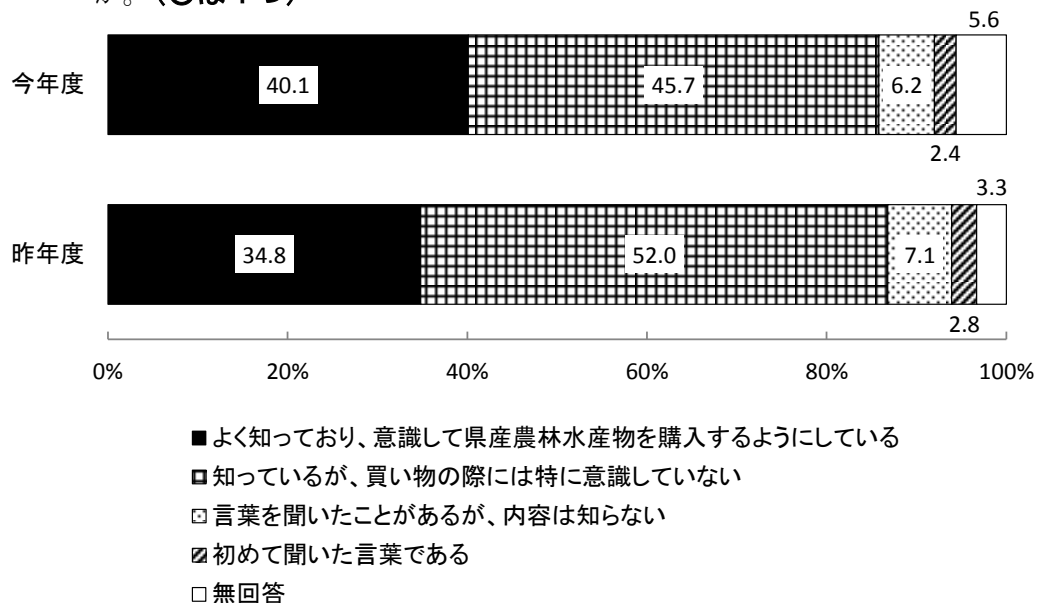


Q13-1で「行わなかった」と回答した人に、運動・スポーツを行わなかった理由について質問すると、「年を取った」が44.2%で最も高く、次いで「仕事(家事・育児)が多忙」が36.4%、「機会がない」が21.3%の順となっている。昨年度と比較すると、「機会がない」が5.1ポイント低下したが、「年を取った」が13.8ポイント、「体が弱い」が6.4ポイント上昇している。

14. 地産・地消の推進について

14-1. 「地産・地消」の認知状況

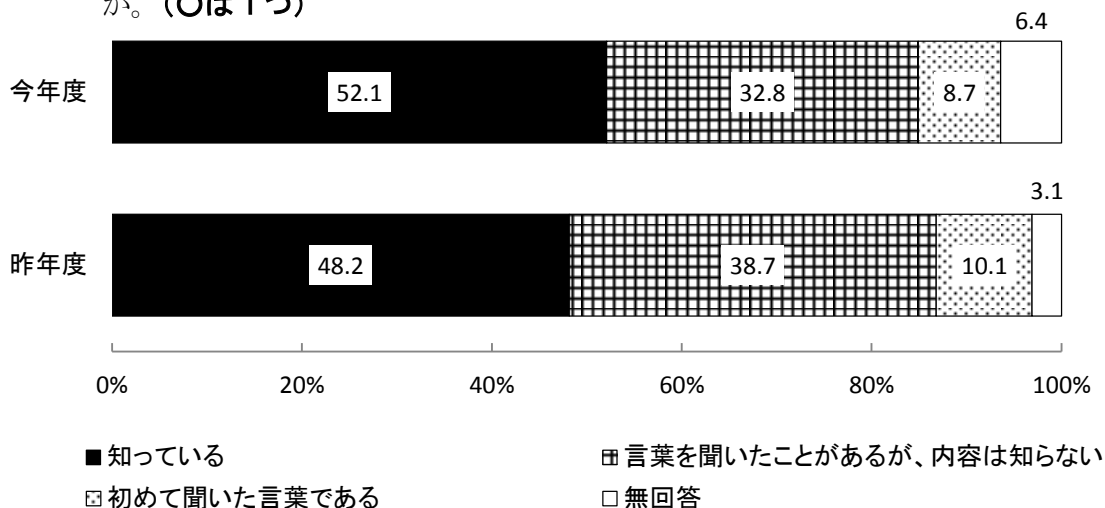
Q14-1 県内で生産された農林水産物を県内で消費する「地産・地消」についてご存じですか。(〇は1つ)



「地産・地消」の認知状況について、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が45.7%と最も高く、次いで「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」が40.1%、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が6.2%、「初めて聞いた言葉である」が2.4%の順となっている。昨年度と比較すると、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が6.3ポイント低下し、「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」が5.3ポイント上昇している。

14-2. 「やまぐちブランド」の認知状況

Q14-2 県産農林水産物等の需要拡大を進めるため、味や品質に優れる「やまぐちブランド」の育成に取り組んでおり、現在、「萩たまげなす」や「やまぐちのあまだい」など約100商品が登録されています。あなたは、この「やまぐちブランド」をご存じですか。(〇は1つ)

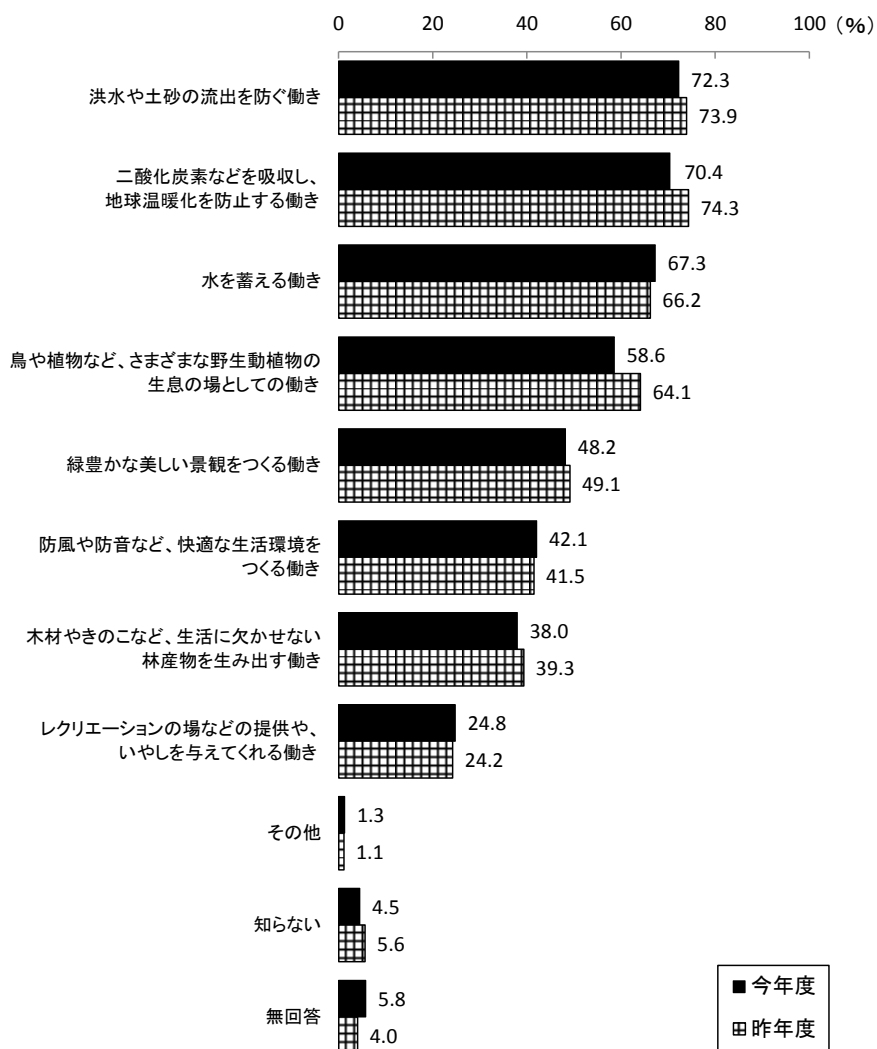


「やまぐちブランド」の認知状況について、「知っている」が52.1%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が32.8%、「初めて聞いた言葉である」が8.7%の順となっている。昨年度と比較すると、「知っている」が3.9ポイント上昇し、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が5.9ポイント低下している。

15. やまぐち森林づくり県民税について

15-1. 森林の持っている働き

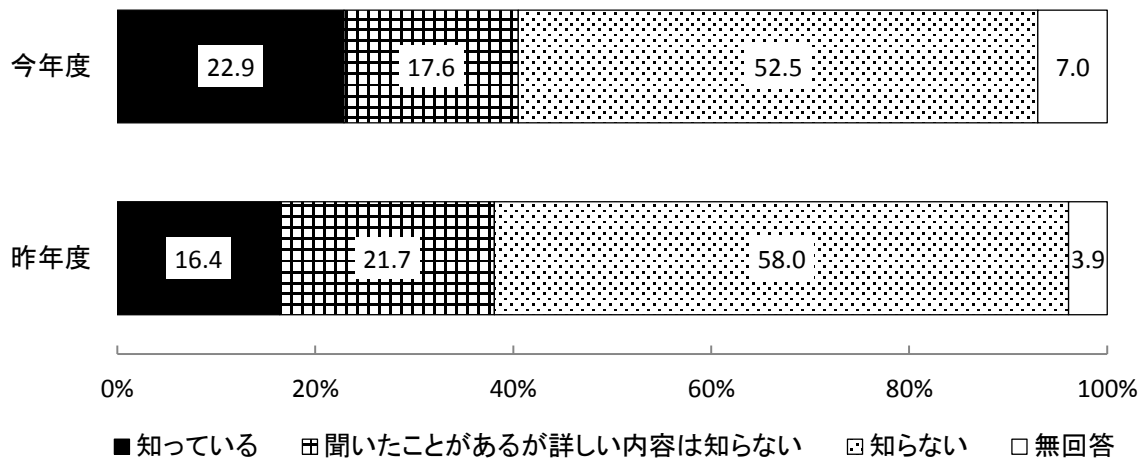
Q15-1 近年、森林の荒廃が問題となっていますが、あなたは、森林の持っているどのような働きをご存じですか。(〇はいくつでも)



森林の持っている働きで知っているものについて、「洪水や土砂の流出を防ぐ働き」が72.3%で最も高く、次いで「二酸化炭素などを吸収し、地球温暖化を防止する働き」が70.4%、「水を蓄える働き」が67.3%、「鳥や植物など、さまざまな野生動植物の生息の場としての働き」が58.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「水を蓄える働き」は1.1ポイント上昇し、「鳥や植物など、さまざまな野生動植物の生息の場としての働き」は5.5ポイント低下している。

15-2. 「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況

Q15-2 山口県では、荒廃した森林の再生を図るため、平成17年度から「やまぐち森林づくり県民税」を導入しました。あなたは、この「やまぐち森林づくり県民税」をご存じですか。(〇は1つ)

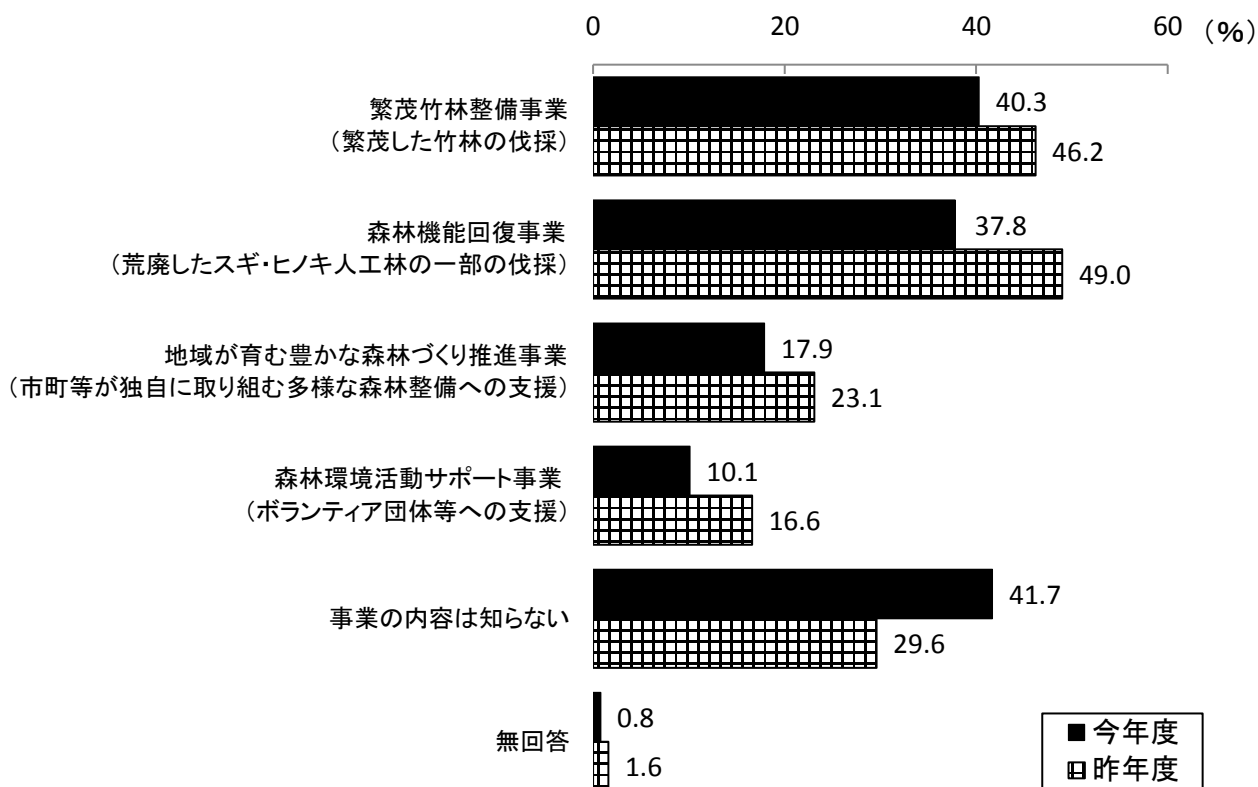


「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況について、「知らない」が52.5%と最も高く、次いで「知っている」が22.9%、「聞いたことがあるが詳しい内容は知らない」が17.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「知っている」が6.5ポイント上昇している。

15-3. 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業の内容

【Q15-2で「1. 知っている」と回答した方に】 (n=357)

Q15-3 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業のうち、どの事業の内容をご存じですか。(〇はいくつでも)

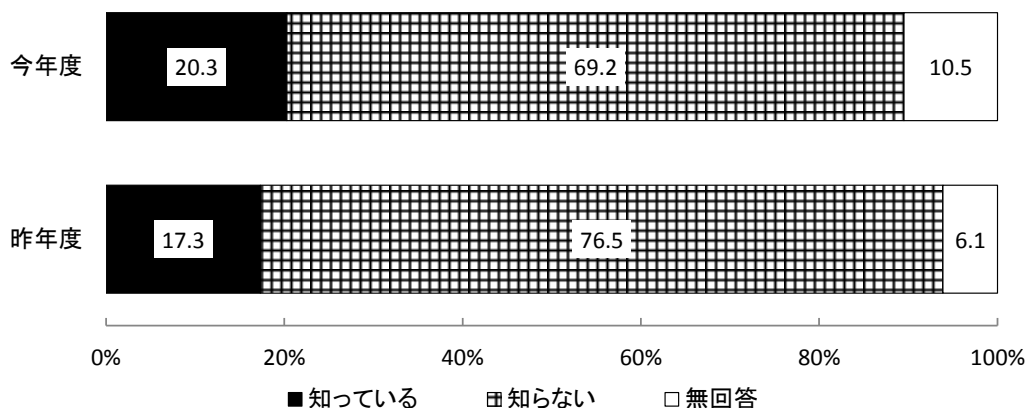


Q15-2で「やまぐち森林づくり県民税」を「知っている」と回答された方に、「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業のうち、知っている内容について質問すると、「繁茂竹林整備事業（繁茂した竹林の伐採）」が40.3%と最も高く、次いで「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の一部の伐採）」が37.8%、「地域が育む豊かな森林づくり推進事業（市町等が独自に取り組む多様な森林整備への支援）」が17.9%、「森林環境活動サポート事業（ボランティア団体等への支援）」が10.1%の順となっている。昨年度と比較すると、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の一部の伐採）」は11.2ポイント低下し、「事業の内容は知らない」は12.1ポイント上昇している。

16. コミュニティ・スクールについて

16-1. コミュニティ・スクールの認知状況

Q16-1 山口県では、すべての公立小中学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組みが導入されており、保護者や地域住民の声を生かした「地域とともにある学校づくり」を推進しています。あなたは、校区の小中学校が「コミュニティ・スクール」であることをご存じですか。（○は1つ）

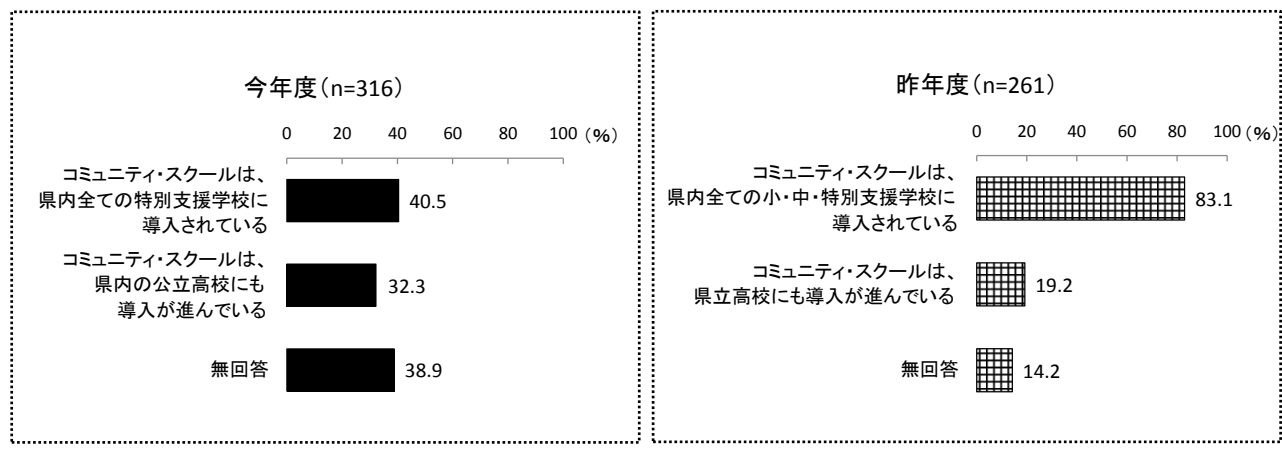


コミュニティ・スクールの認知度について、「知っている」が20.3%となっており、昨年度と比較すると、3.0ポイント上昇している。

16-2. コミュニティ・スクールについて知っていること

【Q16-1で「1. 知っている」と回答した方に】

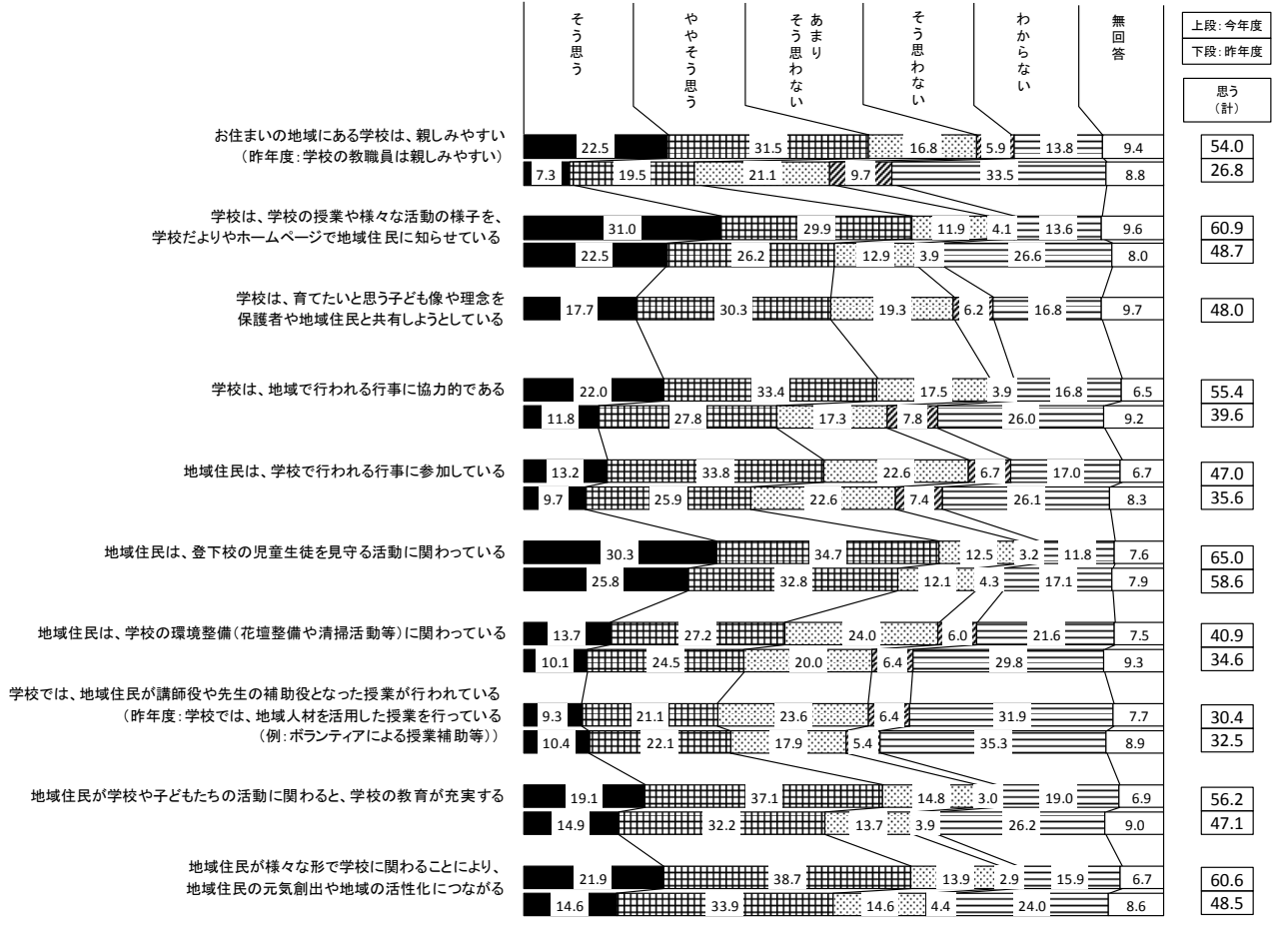
Q16-2 「コミュニティ・スクール」について以下のことをご存じでしたら○をつけてください。（複数回答可）



Q16-2で、「コミュニティ・スクールについて知っている」と回答した人のうち、「県内全ての特別支援学校に導入されていることを知っている」と答えた人は、40.5%であった。（※昨年度調査は「コミュニティ・スクールは、公立小・中学校、特別支援学校に導入されていることを知っている」(83.1%)であり、対象校種が今年度調査と異なる。）

16-3. 地域と学校との関係

Q16-3 あなたがお住まいの地域と地域にある学校(小学校、中学校いずれについてでも可)との関係について、あなたはどの程度そう思いますか。そう思う程度を教えてください。(〇はそれぞれ1つ)



地域と学校との関係について、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『思う(計)』の割合は、「地域住民は、登下校の児童生徒を見守る活動に関わっている」が65.0%と最も高く、次いで「学校は、学校の授業や様々な活動の様子を、学校だよりやホームページで地域住民に知らせている」が60.9%、「地域住民が様々な形で学校に関わることにより、地域住民の元気創出や地域の活性化につながる」が60.6%の順となっている。(※昨年と表記が異なる項目があるため、下記に対比表を掲載する。)

今年度の設問項目	昨年度の設問項目
1. お住まいの地域にある学校は、親しみやすい	4. 学校の教職員は親しみやすい
2. 学校は、学校の授業や様々な活動の様子を、学校だよりやホームページで地域住民に知らせている	2. 学校は、学校の活動や取組を学校だよりやホームページで地域住民に知らせている
3. 学校は、育てたいと思う子ども像や理念を保護者や地域住民と共有しようとしている	(なし)
4. 学校は、地域で行われる行事に協力的である	6. 学校は、地域行事に協力的である
5. 地域住民は、学校で行われる行事に参加している	10. 地域住民が、学校行事に積極的に参加している
6. 地域住民は、登下校の児童生徒を見守る活動に関わっている	9. 地域住民は、登下校の児童生徒を見守る活動に積極的に関わっている
7. 地域住民は、学校の環境整備(花壇整備や清掃活動等)に関わっている	8. 地域住民が、学校の環境整備に関わっている
8. 学校では、地域住民が講師役や先生の補助役となった授業が行われている	1. 学校では、地域人材を活用した授業を行っている(例:ボランティアによる授業補助等)
9. 地域住民が学校や子どもたちの活動に関わると、学校の教育が充実する	11. 地域が学校に関わると、学校の教育が充実する
10. 地域住民が様々な形で学校に関わることにより、地域住民の元気創出や地域の活性化につながる	12. 地域住民が、様々な形で学校に関わることにより、地域の活性化が図られている